

平成 26 年 5 月 2 日

平成 25 年度
事業報告書

社会福祉法人ファミリーユ高知

平成 25 年度 社会福祉法人ファミリーユ高知 事業報告書

評議員会、理事会の開催状況

第 1 回 評議員会・理事会

- 日時 平成 25 年 5 月 28 日 (火) PM6 : 00~PM7 : 30
- 場所 社会医療法人近森会 近森病院 管理棟 3 階 1 会議室
- 議題 監事監査報告
- 1 平成 24 年度事業報告 (案) の件
 - 2 平成 24 年度決算報告 (案) の件
 - 3 就業規則変更の件
 - 4 法人旅費規程の件
 - 5 基本財産の変更に伴う定款変更の件
 - 6 運営規程変更の件

第 2 回 評議員会・理事会

- 日時 平成 25 年 9 月 24 日 (火) PM6 : 05~PM7 : 30
- 場所 社会医療法人近森会 近森病院第二分院 6 階 会議室
- 議題
- 1 高知ハビリテーリングセンター給食委託業務変更の件
 - 2 平成 25 年度補正予算書 (案) の件
 - 3 就業規則変更の件
 - 4 運営規程変更の件

第 3 回 評議員会・理事会

- 日時 平成 26 年 3 月 24 日 (月) PM6 : 00~PM7 : 40
- 場所 社会医療法人近森会 近森病院 管理棟 3 階 1 会議室
- 議題
- 1 平成 26 年度事業計画 (案) の件
 - 2 平成 26 年度予算書 (案) の件
 - 3 平成 25 年度二次補正予算書 (案) の件
 - 4 運営規程変更の件
 - 5 定款変更の件
 - 6 役員改選の件

報告事項

- 1 ホームページ作成進捗状況

障害者福祉サービスセンターウエーブ／グループホームポルト／特定相談支援事業所

総評

上記 3 事業所は愛宕町 1 丁目のCHIビルで運営され、1 階～2 階がウエーブ、3 階がグループホームポルトとなっている。今年、新たに加わった特定相談支援事業所を含む 3 事業所の受付とスタッフルームは 2 階ウエーブにある。スタッフは管理者 1 名、相談支援専門員 1 名、サービス管理責任者 1 名、生活支援員 2～3 名、職業指導員 3 名、事務員 1 名、世話人 5 名、宿直要員（兼任）8 名である。

ノーマライゼーションの基本理念のもと、障害があっても何らかの社会的資源を活用しながらその人らしく地域で自立して生活を維持し、働けるように支援するという大きな目的をもって運営している。平成 25 年度に特徴的なことは特定相談支援事業所が開設されたことである。

運営上最も重視してきたことは利用者が障害を乗り越えて自信と誇りをもった生き方ができる支援をすることであった。そのために利用者の尊厳や倫理的問題には感受性を高め、笑顔と丁寧な言葉遣いで接することを徹底した。

利用者間のコミュニケーションや感情問題の調整にもエネルギーが必要だったのは、知的障害・てんかん気質・発達障害・対人関係過敏などの利用者を対象としているために当然の取り組みであった。話しをよく聴く、気持ちを理解する、感謝を伝えることを職員間で意識して取り組み、ケース検討や態度の統一などをおこなった。利用者の意欲を引き出すことと、作業の間違いを訂正してもらう場面、疲労感を察知して休憩を促すタイミング、ダウンしないようにセーブしながら励ますなど個別対応が必要であるが、サービス管理責任者、支援員ともに力をつけてきていると感じた。

作業効率を上げるために就業時間前からスタッフが段取り良い準備をしてくれていることにも心をとめているし、利用者の送迎、納期商品のチェック、個別記録など勤務時間内に業務が終了しないこともあるが気持ちよく助け合って良い雰囲気の中で 1 年を終えることができた。

1. 福祉サービスセンターウエーブの事業報告

(1) 就労実績

重点事業目的「就労の機会を提供する」では就労継続 B 型登録定員 40 名に対し登録実人数 63 名で昨年に比し 2 名少なかった。障害種別では精神が 78% と圧倒的に多く、知的 16%、身体 6% で精神科がメインという特徴は年々鮮明になってきたといえる。疾患別では統合失調症、うつ病、発達障害が多く、アルコール依存症、薬物嗜癖の既往がある人などさまざまであるが、利用者本人の興味や、やれそうな

感を重視して作業種目を選んでもらっているため、継続した生活ができています。問題は健常者と比べスタミナ・持続力が低く、作業所利用頻度（出勤率）が1週間に5日と持続力の高い利用者は約29%で、知的障害者が占めている。週3日～4日出勤できる利用者は32.3%、2日が16.9%、僅か1日の者が18.5%で、受診やデイケアなどの精神科治療を併用しつつ、作業所をステップアップの場として利用していることが特徴である。性別は男性54%、女性46%と昨年と同比率で、年齢別にみると働き盛りの40歳代が25.3%、30歳以下が20.6%、30歳代と50歳代がそれぞれ19%、60歳代は15.8%となっている。年間の一日平均利用者数は、平成23年度が26名、24年度29名、25年度30名と僅かながら増加している。定員40名をコンスタントに維持するためには、作業スペースと作業種目の拡大が必要で、職員もあと1名の増員が必要である。利用者の動向を見ると、変化なく安定固定して当作業所を活用することを望んでいる利用者が約36名、時間をかけ試行錯誤の後、病状安定が図れば一般就労やA型作業所への移行が可能な人が約30名である。今年就労移行やA型に転換することができたのは2名、同じB型へ異動した人（ハビリのホーム併設・自分に適した作業がある）も2名であった。

当事業所の体験利用をした人は42名であった。

作業種目は

- ① クリーニング科：近森会職員ユニフォームや入院患者私物の洗濯、イオンスポーツクラブのバスタオル洗濯などで、注文受け～手順通り間違わないで分別し洗濯機や乾燥機にかけ～タタミ作業を丁寧に言い配達する一連の作業である。
- ② 施設外作業科：高知市都市整備公社の公園清掃、高知市環境政策課の道路清掃、同法人アルペーテ北本町の花壇整備などを受けている。
- ③ 軽作業科：DM作業・食事用エプロン製作・一般企業からの受注軽作業・パン販売、喫茶運営などを行った。作業種目が多いに越したことはないが、指導員がすべての種目に張り付いて、見直し作業をしなければクレームが出、間違いが発生して迷惑をかけることになるため、任すということがまだまだ難しい段階である。

（2）「自信と誇りが持てるように適切な工賃支給の支援」

利用者の工賃は時給で入所した時点で新人は一律100円としている。3ヶ月後に評価してその人の時給を決め、以降、年2回の評価・見直しを図っていくという手順になっている。

平成26年3月の工賃より算出した現状分析では、100円～149円が8名、150円～199円が24名、200円～249円が20名、250円～299円が7名、300円～349円が2名、350円以上1名で

工賃総額：9,418,535円	一人平均時給換算額268円となった
-----------------	-------------------

H22年度：162.5円、H23年度228.3円、H24年度248円、と僅かずつ上昇している。軽作業と言われる内職的な作業は1個1円以下の物が多く、いかにして少しは利益が出、効率のよい、やりがいにつながる、しかも労力のいかない機械的作業を開発するかにかかっている。どうして利用者の工賃が低いのか当初不思議だったが、一番の要因は、作業に来ない、続かない、来ても利用時間数が少ないために稼げないという実態があることが分かった。例えばクリーニング科の女性は週5日、5.5時間～6時間作業することができ、出勤日数も約21日で約5万円をコンスタントに得て、就労移行へつないでいく支援をしているケースもある。

現実の就労社会生活につなげるためには常同的な作業ができるだけでなく、挨拶や社会性なども要求されるため、家族や利用者が考えているほど甘い現実ではない。自立支援法に護られてやっとB型作業所で再発せずに継続作業ができておれば上等というレベルが現状かもしれない。

(3) 「利用者の人権尊重とニーズにそった支援」「日常生活のマナー・スキル・社会性の向上。可能性の開拓」「研修活動を通じて知識・能力の向上を図る」

この点に関しては①サービス管理責任者が積極的に個別面接や「振り返り」をおこない利用者の気持ちについて、その翌日、職員の朝礼・ショートカンファレンスで報告があり職員みんなで情報を共有した。②ご家族からの苦情電話が1件ありインシデントとして報告された。内容は自閉症の利用者が昼食を作業所で食べずに帰宅するように伝達を受けていたが、昼食時、職員のタイミングが合わず、いち早くいつものように、他人のお弁当を食べて帰ったため、注意が足りなかったことを「自閉症のあつかいについて勉強してほしい」とお叱りをうけた。

日常生活のマナー・社会性の向上については、毎朝の利用者との朝礼・ショートミーティングで職員が交代で当番に当たり何かのスピーチと伝達や実技をおこなった。外部講師（グアテマラ雑貨販売小谷さん・近森病院危機管理室長岡村さん）のスピーチも利用者にとっては異文化で好評だった。職員が自己開示することは人間関係構築の上からも意味があったと考えます。出退勤時、タイムカードを忘れず押す。挨拶をする。受け持ちの当番役割を果たす。月1回の体重・血圧測定などはほぼ実行できました。実施した研修は下記のとおりです。

第1回 5月29日	腰痛予防について講義・実技	山中由美子先生
第2回～4回 7月8日～23日	正しい歯磨き 口腔ケアの講義。実技	近森リハビリテーション病院 歯科衛生士4名
第5回 11月9日	AEDの使い方・救急蘇生実技	江の口消防署

第6回 12月25日	肺炎・結核の知識と予防	近森幹子先生
第7回 2月21日	ノロウイルスの予防と対策	近森幹子先生
春研修： 4月19日	岡豊町 歴史民俗資料館	
秋研修： 10月18日	越知町 コスモス祭り 宮の前地質資料館見学	

(4) その他

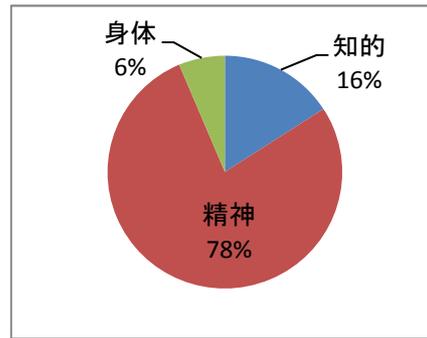
- ・ 藤田あゆみ主任が産休入りとなりその間水野慶子がサービス管理者と主任業務を兼任した。
- ・ 職員の研修は近森病院第二分院の教育プログラムの紹介をうけ発達障害・SSTの研修に参加した。

1.障害種別

※ 実人数 63

障害種別	
知的	10
精神	49
身体	4

(人)

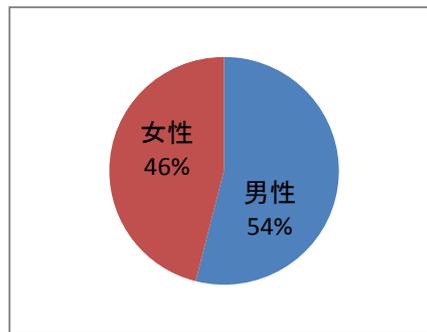


2.性別

※ 実人数 63

性別	
男性	34
女性	29

(人)

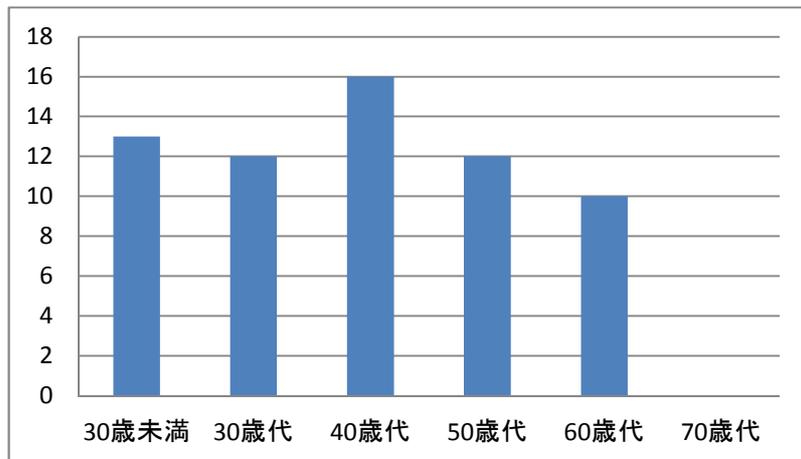


3.年齢別

※ 実人数 63

年齢別	
30歳未満	13
30歳代	12
40歳代	16
50歳代	12
60歳代	10
70歳代	0

(人)

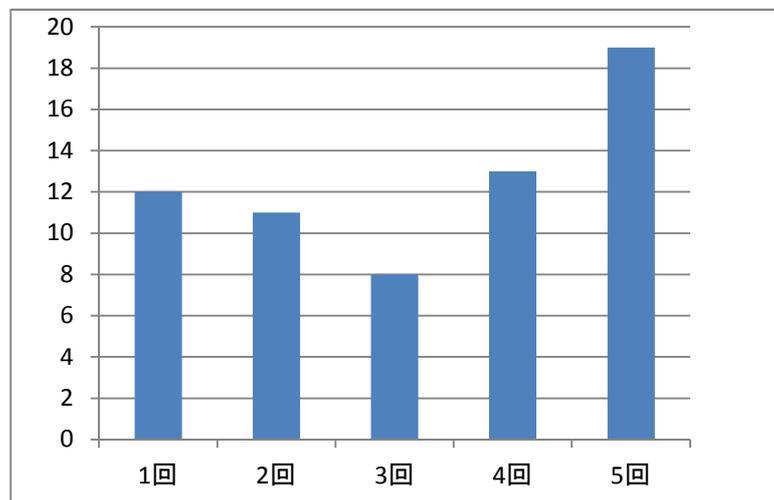


4.利用頻度別

※ 実人数 65

利用頻度 (1週間の内)	
1回	12
2回	11
3回	8
4回	13
5回	19

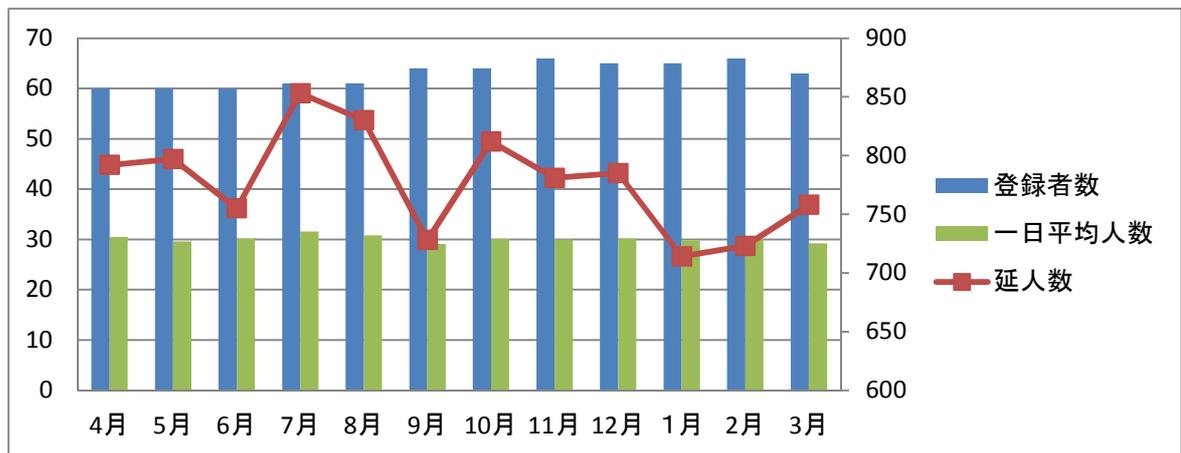
(人)



5.月別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
登録者数	60	60	60	61	61	64	64	66	65	65	66	63
延人数	792	797	755	853	830	728	812	781	785	714	723	758
一日平均人数	30.5	29.6	30.2	31.6	30.8	29.1	30.1	30.0	30.2	29.8	30.1	29.2

(人)

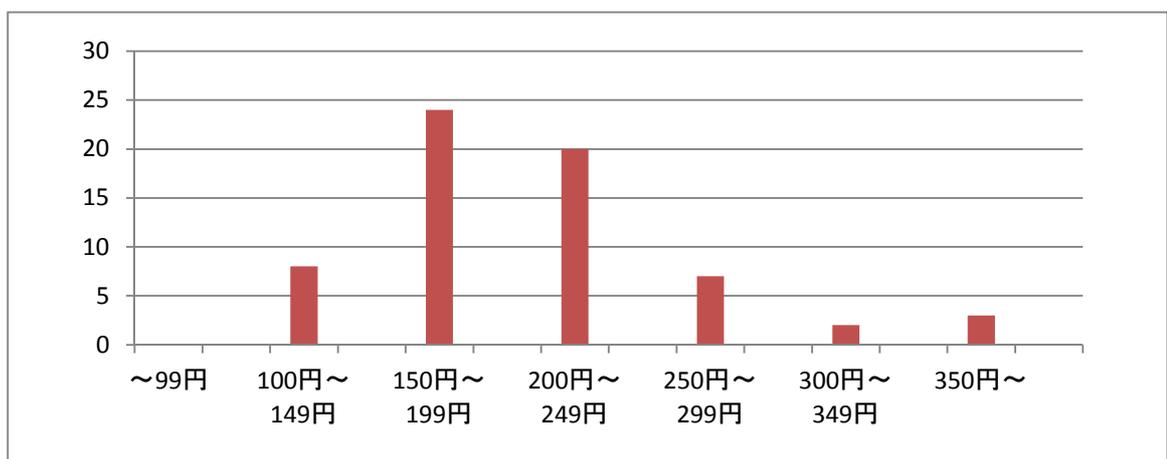


6.利用者工賃（時給）

※ 平成26年3月の工賃より算出（対象者64名）

~99円	100円~ 149円	150円~ 199円	200円~ 249円	250円~ 299円	300円~ 349円	350円~
0	8	24	20	7	2	3

(人)

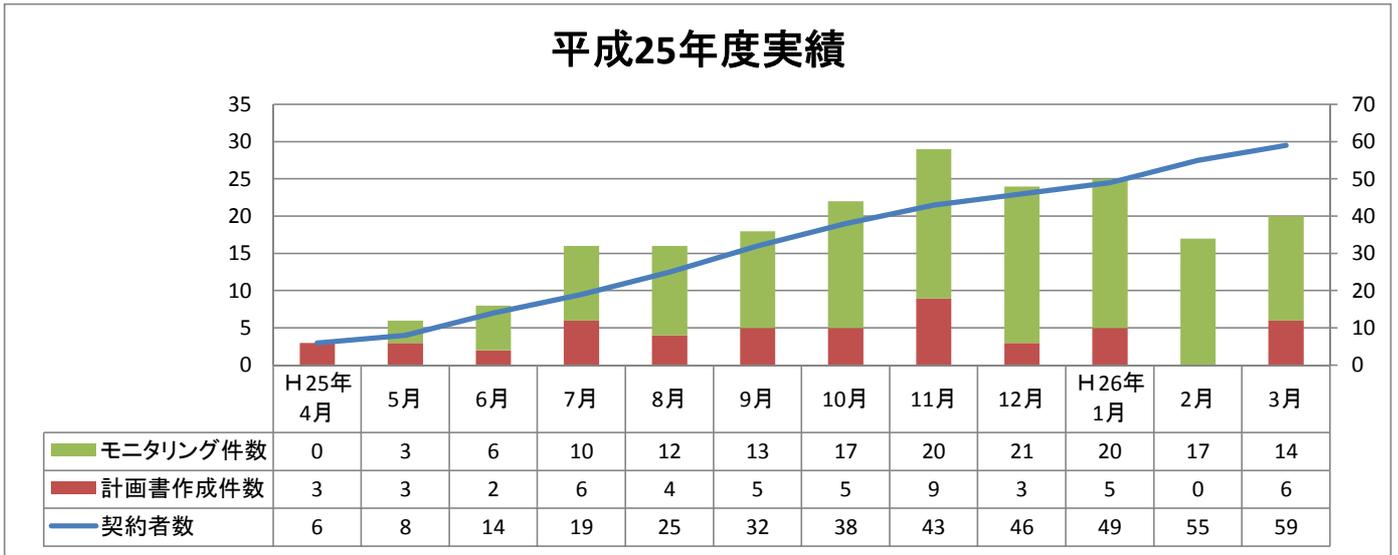


障害者福祉サービスセンターウェブ 相談支援事業所

2013.4.1~2014.3.31

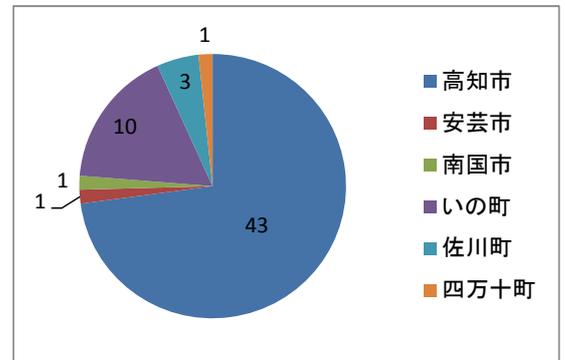
○ 平成25年度実績

	H25年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H26年 1月	2月	3月	合計
契約者数	6	8	14	19	25	32	38	43	46	49	55	59	394
計画書作成件数	3	3	2	6	4	5	5	9	3	5	0	6	51
モニタリング件数	0	3	6	10	12	13	17	20	21	20	17	14	153



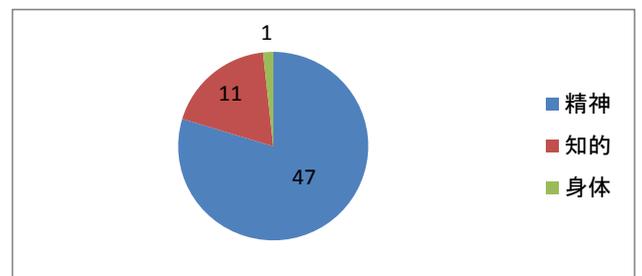
○ 市町村別担当数

高知市	安芸市	南国市	いの町	佐川町	四万十町	合計
43	1	1	10	3	1	59



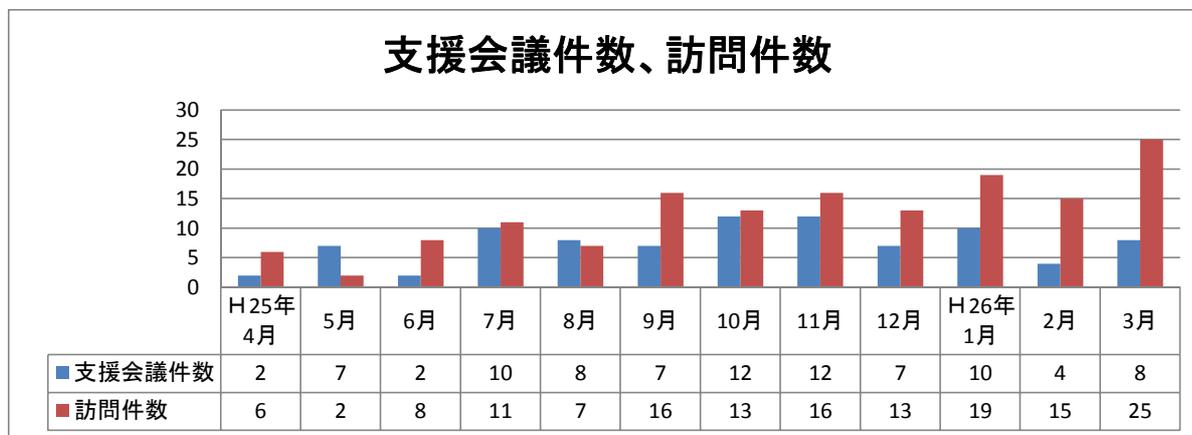
○ 障害別

精神	知的	身体	合計
47	11	1	59



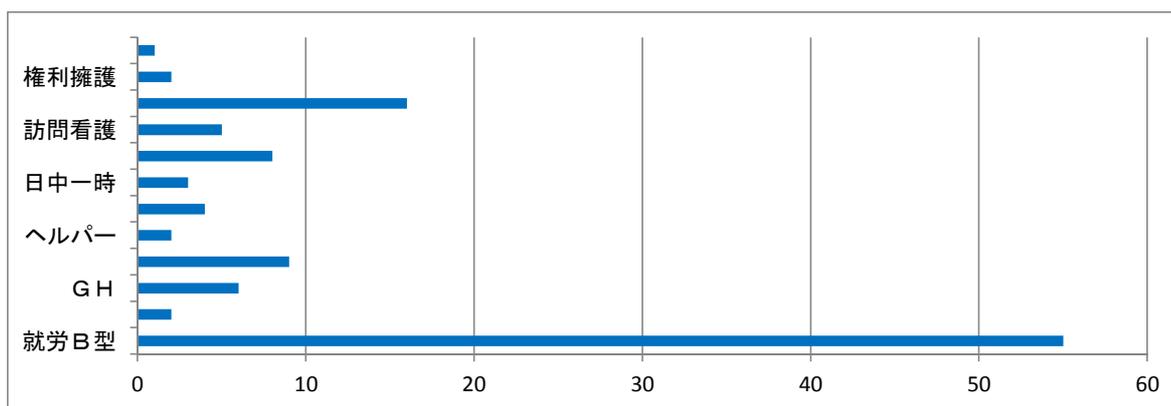
○ 支援会議件数、訪問件数

	H25年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H26年 1月	2月	3月	合計
支援会議 件数	2	7	2	10	8	7	12	12	7	10	4	8	89
訪問件数	6	2	8	11	7	16	13	16	13	19	15	25	151



○ 利用サービス別

就労B型	就労A型	GH	CH	ヘルパー	短期入所	日中一時	地活	訪問看護	精神デイ ケア	権利擁護	その他
55	2	6	9	2	4	3	8	5	16	2	1



※ サービスの重複あり

○ まとめ

事業開始初年であり、色々なことが手探りの状態で事業が始まった。

契約者は始め、併設事業所の障害者福祉サービスセンターウェブ(就労継続支援B型)やグループホームポルトの利用者が多かったが、徐々に支援センター、病院、市町村等から新規利用相談も増えてきた。そのため、ウェブやポルトを利用しない方や高知市以外に居住の方の契約件数も増えた。契約件数増加に伴い、会議やアセスメントのための訪問回数も増えている。

平成27年4月までに福祉サービスの利用者すべてにサービス等利用計画の作成が義務づけられており、平成26年もさらに契約者が増えていくことが予想される。その中で、本人が希望している生活や将来に少しでも近づけられるよう、これからもお手伝いをしていきたい。

グループホームポルト実績報告

- **見学者数 6名**

障害別の割合は精神障害3名、知的障害2名、身体障害1名。

紹介元：支援センターこうち、さん、しゃくなげ、精神保健福祉センター、藤戸病院、土佐病院。

- **体験利用者数 4名**

病院からの退院時の相談やGHからの転居相談あり。体験した方で利用につながったのは3名。うち1名は家から日中活動に通うとのことで利用とならず。

- **入所者数 5名**

1名は愛宕病院からの紹介。アルコール依存症とその後遺症障害の女性。長期間の体験を経て入所。もう1名は総合心療センターからの紹介。発達障害の女性。もう1名はもともとポルトに入所されていたが、藤戸病院に長期入院し、一旦契約が終了となった精神障害の女性。知的障害のある男性1名と身体障害のある男性1名入所。

- **退所者数 5名**

- **退所先 <アパート単身2名・グループホーム1名・病院（入院）1名・実家1名>**

ポルトでの生活訓練を経て、1名はアパートでの一人暮らしが可能となり退所、もう1名は恋人との暮らしが実現し退所。1名は部屋に風呂やトイレが一体となったグループホームを希望し転居。残り1名は藤戸病院に長期入院となり退所となる。

1月に入所された男性は電気店での女性トイレ盗撮で現行犯逮捕されそのまま退所となる。

- **定員12名に対する年間実績（稼働率87%）**

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人数	11	11	11	11	11	11	10	10	9	11	10	10
男/女	6/5	6/5	6/5	6/5	6/5	6/5	5/5	5/5	4/5	6/5	5/5	5/5

- **利用者平均年齢 49歳（H26年3月末時点）**

- **平均利用日数 613日（H26年3月末時点）**

- **年間行事**

年2回の防災・避難訓練、夏に行う外食、年中行事に合わせた食事等、入所者の安全と安心、楽しみや生き甲斐、幸福を感じてもらえるよう、世話人と支援員が協力することができた。

*空き部屋を作らないよう今後も営業努力していく。

平成 25 年度 高知ハビリテーリングセンター事業報告

総評 平成 25 年 4 月 1 日より、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(障害者総合支援法)」が施行され、障害者施策も段階的に様々な見直しがされつつあります。また、近年の社会福祉事業は、介護や障害、保育等への民間事業者の参入、第 2 種社会福祉事業のみならず第 1 種社会福祉事業ともに浸食されつつある実態から、国の障害者施策各検討会等では、社会福祉法人の見直しが議論されています。社会福祉法人の統廃合や地域内の事業者の連携による生活支援の推進ができるよう公益性を持ち、主体的な経営を行う経営形態、経営の透明性、地域貢献が見えること等を求め、様々な改革を進めています。

このような状況の中、高知ハビリテーリングセンターは、県から移管された事業(現在の機能訓練、就労支援継続 B 型、共同生活介護・共同生活援助事業)のみではなく、毎年、障害者の自立生活や社会復帰に必要だと考えられる事業を展開してきました。そして、25 年度 4 月 1 日からは高知県に充足されていない社会資源の一つである、障害児通所支援事業の「放課後等デイサービス」を開設しました。これは、放課後や長期休暇中の障害児のサポートをするものですが、保護者支援の機能を果たすものでもあり、学齢期の児童が対象のため学校との連携も必要とされます。これまでも養護学校・特別支援学校の卒業生の利用があり、既に学校との連携はありますが、更にその幅が広がりました。また、障害児相談支援事業所の開設も、障害児本人および保護者支援を行うためです。障害告知をされ将来への不安を持つ保護者の支援体制が十分とは言えない高知県であるため、当センターのような通過型の訓練施設に開設する意味は大きいと考えます。25 年度につきましては、相談支援専門員が「放課後等デイサービス」の営業、利用相談から開始に至るまでの業務、直接支援に追われてしまったため実働できませんでしたが、職員の配置を検討し、26 年度からは障害児の相談支援も開始していきます。

さて、登録利用者数は、22 年度の新体系移行後、25 年度 3 月で過去最高の数値となりました。(12 頁参考資料 1) そして、日中支援事業の土曜日開所が定着しつつあることや、利用頻度のアップ等により延べ利用者数も増加しています。その要因の一つとして考えられるのは、本年 1 月から改めて開始した高知県下の病院等への営業活動ですが、その場には多職種の方々が参席していただき、当センターへの関心を高めていただいているように感じます。その後、相談件数は増え、利用相談をくださる病院等に広がりができました。年度早々から好成績でスタートを切れることはこれまでになかったことであり、とても大きな喜びです。

また、地域に必要とされる社会福祉施設を目指しての具体的活動として、25 年度の当センターの委員会活動には、イベント企画や啓発を行うために「地域ふれあい委員会」を設置しました。そして、内ノ谷自治会に賛助会員として承認していただき、収穫祭の開催案内や内ノ谷の地域行事である草刈りや秋祭りに参加、春野町文化祭のテント張りや春野町民生委員会の研修会の企画、そのための事前説明会を 25 年度に開催等、少しずつではありますが地域住民との交流ができるようになってきました。

最後になりましたが、25 年度 5 月に完成した 3 ヶ所のスタッフルームを一体化するための職員室大改修は、他部署との連携や連絡が適時とりやすく、顔が見られる環境となり、職員間の関係をよりよく成立させているように思われます。そして、利用者支援の質の向上はもちろんのこと、主任のリーダーシップの元、他部署との協働姿勢や施設行事への積極的参加等、職員の団結力が強くなると同時に当センター職員としての士気が高くなっていることを痛感しています。

26 年度におきましても、職員一同、支援者としてのスキルを更に磨いていく所存です。

<平成 25 年度利用登録者数>

参考資料 1

	事業名	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
日中支援	機能訓練	26	25	23	22	22	24	27	27	26	26	25	26	30
	生活訓練	8	9	9	9	10	11	10	10	10	9	10	11	11
	生活介護	6	4	5	5	6	6	5	5	5	6	7	8	8
	就労移行	12	12	12	11	12	11	12	11	11	10	9	9	12
	就労継続B型	48	64	65	66	64	64	65	67	68	68	67	68	70
	キュール	10	15	19	27	31	40	41	51	51	58	64	64	74
夜間支援	施設入所	40	28	27	27	30	30	29	30	29	28	31	34	35
	ショートステイ		45	50	52	53	56	56	61	62	62	65	65	66
	ハビリホーム	36	29	28	31	29	30	30	31	30	30	30	30	30
相談支援	特定	新規	10	17	13	5	6	6	3	5	9	10	9	11
		モニタ	0	5	11	17	18	14	21	22	23	21	10	20
	一般	移行	0	2	1	1	0	3	0	0	0	2	1	0
		定着	0	1	1	0	1	1	0	0	1	0	0	0
	障害児	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		モニタ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

*1 登録者数とは、判定会を行い、利用決定通知書をお送りしている方、契約を交わし利用開始をしている方の数です。

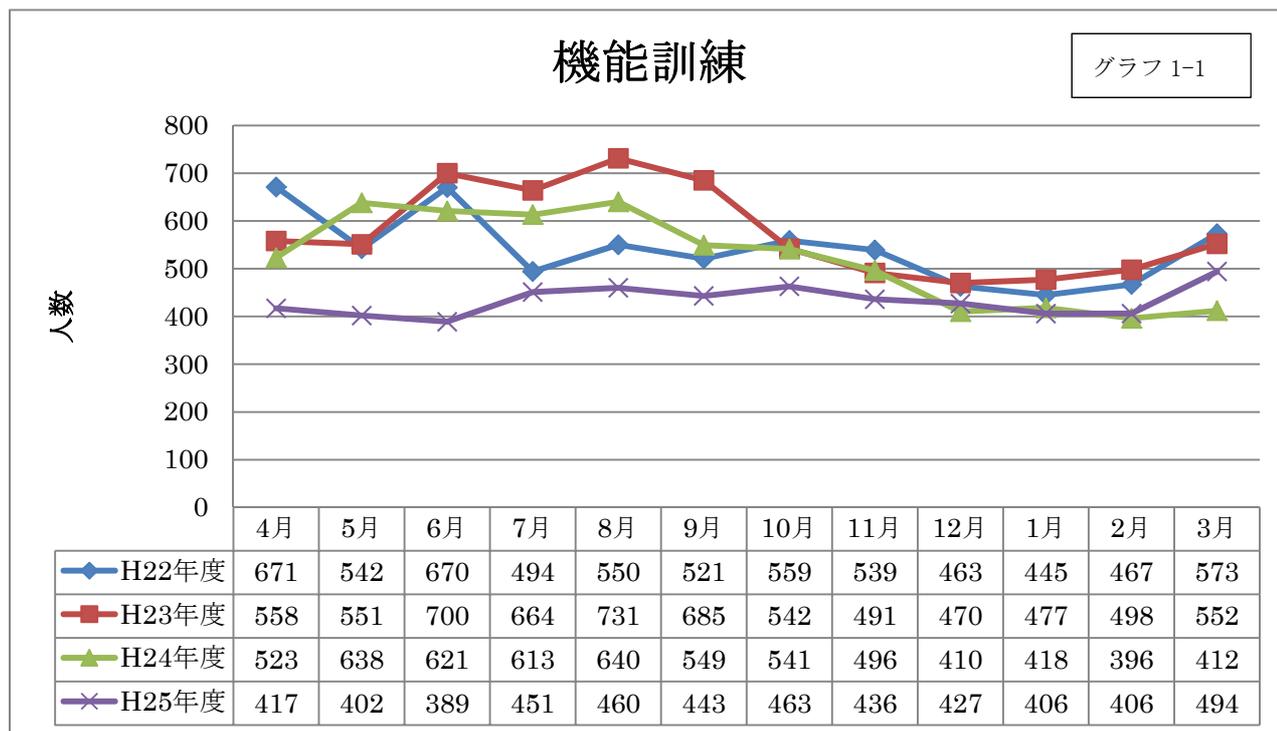
*2 相談支援のモニタとは、モニタリングを省略しています。

平成 25 年度 障害者支援施設高知ハビリテーリングセンター
自立訓練事業報告

25 年度 12 月より、24 時間の生活上で利用者の身辺動作や生活全般の把握を目的として、自立訓練部支援員も生活支援部とともに入浴介助と夜勤を行うことにしました。

1. 利用者状況

①機能訓練事業(身体・1.5 年)の延べ利用者数



25 年度の延べ利用者数は、横ばい状況です。(グラフ 1-1) ただし、当資料 14 頁の参考資料 1-①、1-⑥にありますように新規利用者は 32 名、21 名の利用者が終了し、その転機先の内訳からも通過型としての機能は果たせていると考えられます。また、新規利用者の転機元は、24 年度には病院からの転機が 4/5 を占めていましたが、当資料 14 頁の参考資料 1-③にありますように 25 年度については、病院と在宅がほぼ同じ割合を占めています。その中には、病院から退院する際に、第二号被保険者は介護保険優先の原理でサービス調整され自宅復帰をしていたものの、「高齢者の多い事業所へのサービス利用に抵抗を感じる」あるいは「日中の活動性を上げるために」という理由で在宅から当センターの利用へと繋がる場合が多くありました。

新規利用者を障害別に見ますと、当資料 14 頁の参考資料 1-④のとおり脳血管障害が約 9 割を占めており、養護学校・特別支援学校卒業生の機能訓練利用者はわずか 1 名でした。

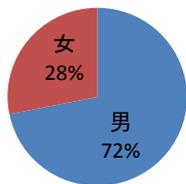
≪機能訓練事業≫

○新規利用者

① 男女比

男	23名
女	9名
計	32名

1-①男女比



1-②居住先



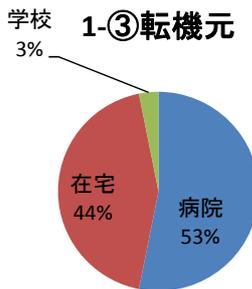
② 居住先

ハビリ	20名
自宅	12名
計	32名

③ 転機元

病院	17名
在宅	14名
学校	1名
計	32名

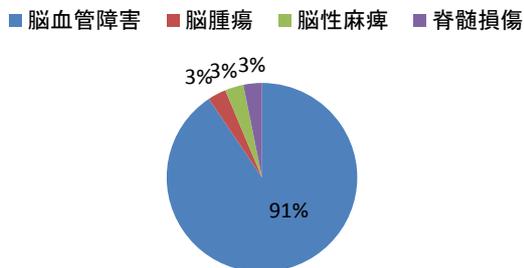
1-③転機元



④ 病名・障害名

脳血管障害	29名
脳腫瘍	1名
脳性麻痺	1名
脊髄損傷	1名
計	32名

1-④病名・障害名

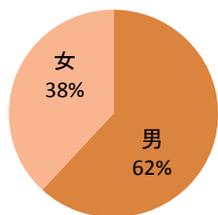


○利用修了者

⑤ 終了者

男	13名
女	8名
計	21名

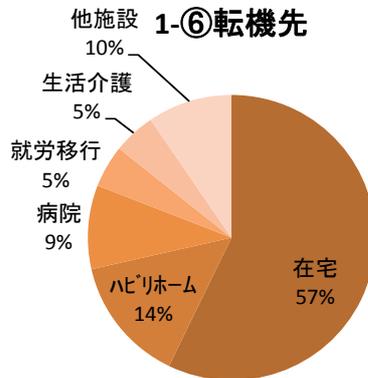
1-⑤男女比



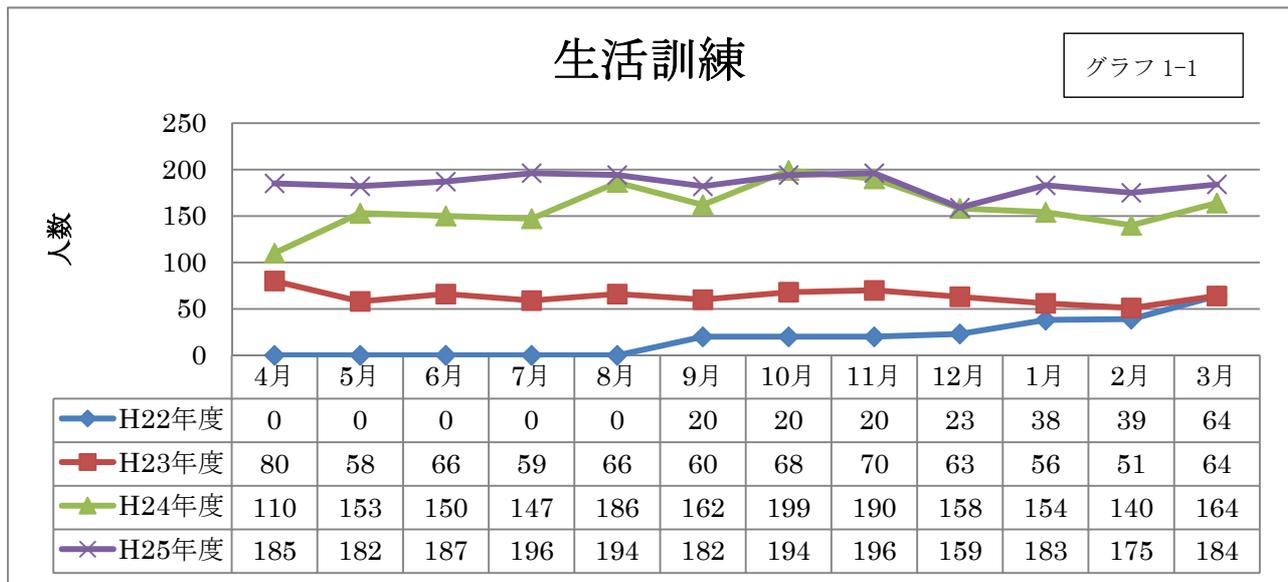
⑥ 21名の転機先

在宅	12名
病院	2名
他施設	2名
就労移行	1名
生活介護	1名
ハビリホーム+(B型)	3名
計	21名

1-⑥転機先



②生活訓練事業(精神、知的・2年)の延べ利用者数



25年度は、24年度に引き続き利用者は増加傾向にあり、4年間で最高の利用者数となりました。(グラフ 1-1) 様々な機関から高次脳機能障害者や養護学校・特別支援学校卒業生に対する社会生活訓練の場として周知されてきたものと考えられます。当資料 16 頁の参考資料 2-②にありますように、ハビリ本館に入所して訓練に臨む利用者が多く、また、当資料 16 頁の参考資料 2-④に示すように脳障害による高次脳機能障害(疑いを含む)の利用者が 3/4 を占めています。高次脳機能障害者の場合は、あらゆる生活場面の評価も必要とされてくるため、入所の必要性がある場合には併用して入所利用を勧めています。

2. 在宅調整

- 家屋環境調整のための家庭訪問……12 件
- 職場訪問……2 件

3. 自立訓練の内容

表 1-1

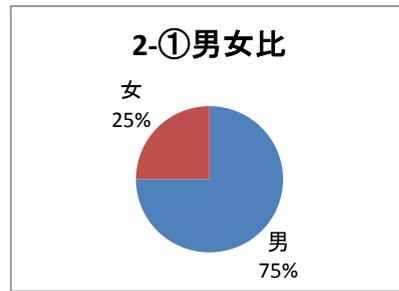
科目	訓練内容
PT	<p>最大限の機能能力 Up を図り、また、動作方法の検討や指導、車いす・補装具などの利用、環境調整を行い、自身の残存能力を最大限に発揮できるスキルを獲得。退所後の生活に向け、能力の維持向上、体調管理などの自己メンテナンスが行えることを目的とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歩行、階段昇降訓練 ・ 筋力強化訓練 ・ バランス訓練 ・ 応用動作訓練 ・ 関節可動域訓練、ストレッチ

《生活訓練事業》

○新規利用者

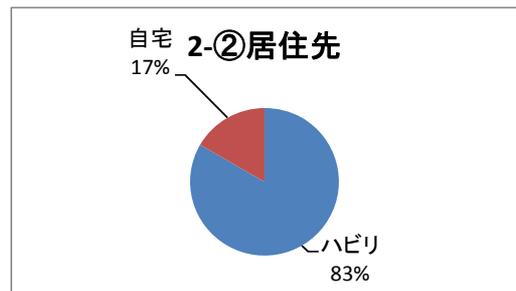
① 男女比

男	9名
女	3名
計	12名



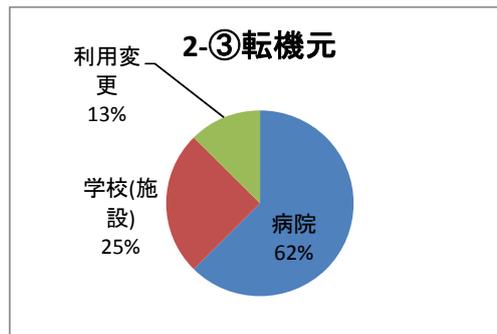
② 居住先

入所	10名
通所	2名
計	12名



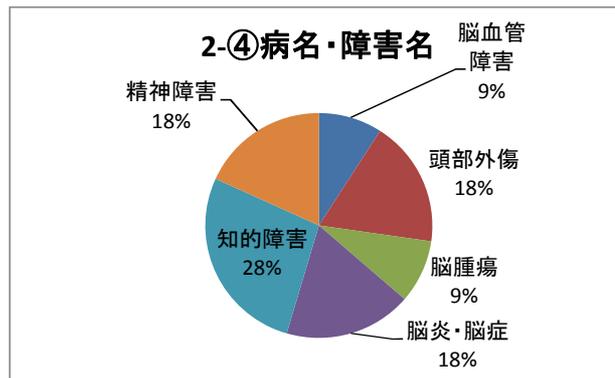
③ 転機元

病院	5名
学校	3名
その他	1名



④ 病名・障害名

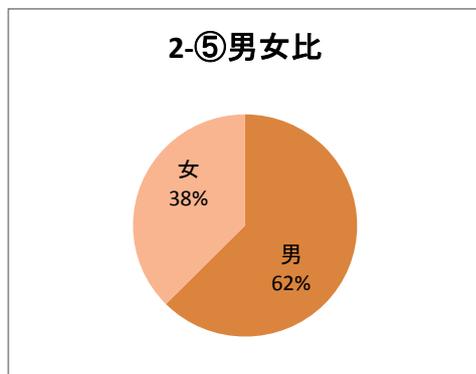
脳血管障害	1名
頭部外傷	2名
脳腫瘍	1名
脳炎・脳症	2名
知的障害	3名
精神障害	2名
計	12名



○利用修了者

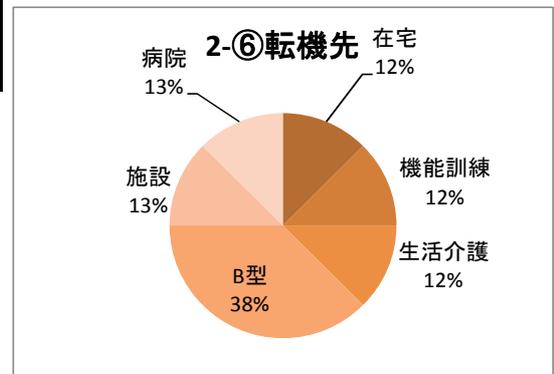
⑤ 修了者

男	5名
女	3名
計	8名



⑥ 8名転機先

在宅	1名
施設	1名
病院	1名
機能訓練	1名
生活介護	1名
B型	3名
計	8名



	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物理療法 ・ 障害者スポーツ模擬的訓練 ・ 自主トレ指導、課題指導 ・ 機能能力評価、動作チェック ・ ADL 評価、環境調整 ・ 車いす等物品修理、管理 ・ 装具・車いす物品修理、作製、申請 ・ 自助具作製
OT	<p>主に高次脳機能障害や手指巧緻性、更衣やトイレの模擬的な訓練、家事動作等の生活関連動作を中心に訓練を行い、生活に必要な自己管理能力の向上、日常生活関連動作の向上、センターでの生活や在宅や転帰先の施設に行っても趣味的な活動を継続できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高次脳機能訓練 ・ 手指巧緻性訓練 ・ 応用歩行訓練 ・ 調理動作訓練 ・ 家事動作訓練 ・ 和室内動作訓練 ・ 日常生活動作訓練 ・ アクティビティー ・ 復職向けの作業活動 ・ 自助具作製
パソコン	<p>パソコンの基本操作から就労に向けてのビジネスソフト操作、また趣味や余暇等生活場面での使用を目的としたパソコン技術の獲得を目指した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本操作：電源入切からマウス操作、入力練習を実施 ・ ビジネスソフト：Word・Excel・インターネット操作の習得 ・ その他：希望に応じて資格取得や応用ソフトでの練習を実施 ・ 年賀状や暑中見舞いハガキの作成 ・ カメラから写真の取り込みやパソコンでの絵画等の趣味的な活動
趣味・健康	<p>生活習慣病の予防や身体組成の改善、呼吸循環機能をはじめとする身体諸機能の維持向上のため行う。個人の目標を作り、取り組みの中で利用者自身の健康意識を高め、生活機能の低下防止、維持増進、趣味や役割の獲得を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己ストレッチ ・ エアロビクス ・ 筋トレ（ペットボトル使用） ・ レクリエーションスポーツ ・ エクササイズ（ジムニックボール・ストレッチボール等使用） ・ 体力測定 ・ アロマセラピー ・ 周辺散策 ・ 園芸活動

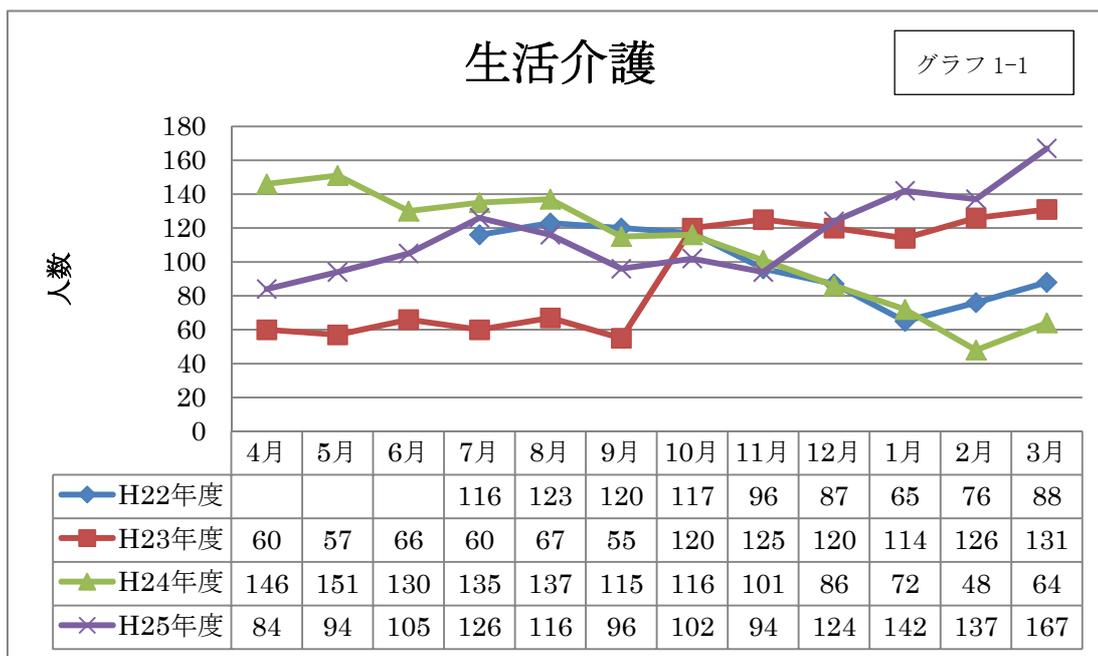
	<ul style="list-style-type: none"> ・Wii
コミュニケーション	<p>失語症利用者に対して、テキスト形式やグループレクを通して、コミュニケーションスキルの向上を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト課題 ・書字 ・計算 ・意思伝達代償手段訓練 ・グループ訓練
医務	<p>看護師が健康面への指導を行い、体調の自己管理やセルフケア等が自身で行えるように働きかけた。必要に応じメンタルのフォローや性教育を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の病状、内服薬説明 ・血圧等バイタルチェック（自己管理へつなげる） ・身体測定（体重管理等含） ・セルフケアチェック
栄養士	<p>施設内の食事摂取や栄養管理、食事形態の検討だけでなく、転帰先に合わせての栄養、カロリーについての助言、実際に調理を行いながらメニューの献立を立てる練習などを行い、健康管理能力向上に働きかけた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養指導 ・メニュー、献立作り、調理指導 ・買い物や外食での注意点等の指導 ・健康管理 ・食形態の管理
生活の時間	<p>生活の場である居室にて掃除や整理整頓、物品管理、ゴミ出し、生活リズムの獲得等の自己管理能力の能力向上を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自室掃除、整理整頓 ・洗濯 ・更衣、入浴訓練 ・移動スーパー利用 ・間食や飲水チェック及び指導 ・排泄訓練 ・時間管理能力、生活リズムチェック及び指導・管理
体カトレーニング	<p>障害者スポーツセンター職員より指導を受け、スポーツを通して、自身で体力や活動性の向上を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレッチ（ジムニックボール等） ・障害者スポーツ（ボッチャ・ペタンク・バドミントン・ビームライフル・バランスボールサッカー・フライングディスク等）
グループ訓練	<p>グループでの訓練を通して、それぞれの目標達成へ向けて支援を行った。</p> <p><u>グループ分け</u></p> <p>○外出 ○映画 ○釣り ○買い物 ○調理</p>
自習	<p>自分自身で決められた時間をどのように生活するのか選択し、自分で決めた内容に沿って時間を過ごす</p>

平成 25 年度 障害者支援施設高知ハビリテーリングセンター
生活介護事業報告

生活介護事業は、次施設待機者やショートステイ中の日中活動の場として平成 22 年 7 月 1 日に開始し、能力低下がおこらぬよう運動を取り入れることで活動性の維持を保っています。

1. 利用者状況

○生活介護事業の延べ利用者数



25 年度の後半からは、B 型利用者のレベルダウンによる利用変更やはるのハビリホームへの入居前に準備期間中の日中支援としての利用者がいました。そして、ショートステイ中でのサービス利用を希望されることが増え、過去最高の利用者数となりました。(グラフ 1-1) 他施設においては、入所+生活介護となればその先への転機は殆どありませんが、当センターにつきましては通過型としているため、当資料 20 頁の参考資料 3-⑤のように 4 名が利用終了となりました。

2. 活動内容

表 1-1

科 目	内 容
整容	身なりを整えることを怠らない習慣をつける。(更衣、ひげそり等)
運動	体力維持や能力低下を防ぐために適度に身体を動かす。 (立位訓練、車椅子駆動、ハビリ体操等)
学習	頭の体操や認知症予防のために座学として行う。(計算、書字、ぬり絵等)
手芸	手指の動きが衰えないように楽しみも兼ねて行う。
ゲーム テーブルゲーム	視覚的刺激や敏捷性等も鍛えられ楽しみながら頭脳の活性化を図る。 (DS、トランプ等) 他者との交流
ドライブ(散歩)	季節感を味わう場所への外出訓練を行う。
DVD鑑賞、TV	楽しみの時間。
生産活動	B 型の生産活動内容と同様の作業の実施。

《生活介護事業》

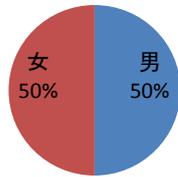
参考資料3

○新規利用者

① 男女比

男	4名
女	4名
計	8名

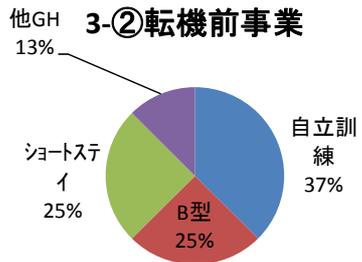
3-①男女比



② 転機前事業

自立訓練	3名
B型	2名
ショートステイ	2名
他GH	1名
計	8名

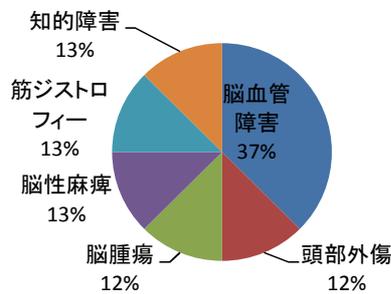
3-②転機前事業



③ 障害名・病名

脳血管障害	3名
頭部外傷	1名
脳腫瘍	1名
脳性麻痺	1名
筋ジストロフィー	1名
知的障害	1名
計	8名

3-③障害名・病名

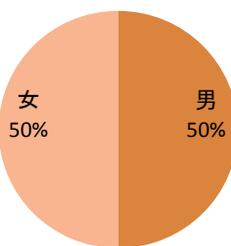


○利用修了者

④ 終了者

男	2名
女	2名
計	4名

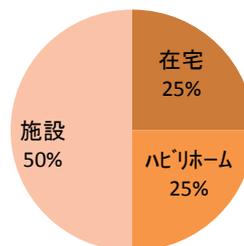
3-④男女比



⑤ 4名の転機先

在宅	1名
ハビリホーム	1名
他障害者支援施設	2名
計	4名

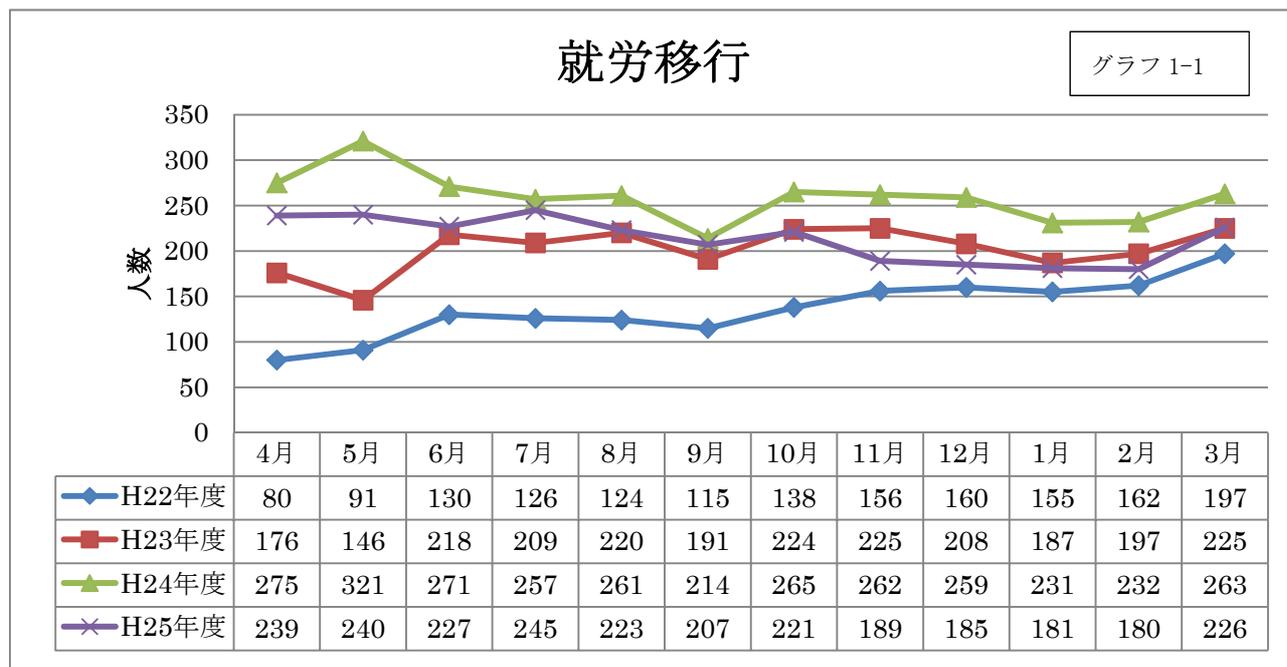
3-⑤転機先



平成 25 年度 高知ハビリテーリングセンター就労支援事業所
就労移行支援事業報告

就労移行支援事業は、就労定着が困難である現状もあり定員数を 20 名から 12 名に変更して、利用者一人ひとりの課題解決に向けて支援のあり方や他機関との連携に努めました。また、支援員が代わったことにより OB 会の参加者が減ることもありました。また、職場訪問や OB 会は利用終了後の定められている期限にとらわれることなく継続して支援を行いました。

1. 利用者状況



25 年度の延べ利用者数(グラフ 1-1)には大きな変動はありませんが、当資料 22 頁参考資料 4-②にありますように在宅からの新規利用者が半数を占めました。当センターの自立訓練からの利用変更はありませんので、他機関からの紹介が増えてきたことがわかります。また、当資料 22 頁参考資料 4-④の障害種別で見ますと、身体障害者が 8 割を占めていますが、その内車椅子利用者が 4 名、高次脳機能障害者は 10 名のうち 7 名となっています。25 年度の利用修了者は 11 名であり、約半数は就職しました。6 名の就職先、訓練期間を表 1-1 に示します。

表 1-1

就職先	訓練期間	障害種別	備考
有限会社 池澤農機商会	1 年 2 ヶ月	身体障害者	
安芸福祉保健所	1 年	〃	
サンシャインクラージュ	1 年 5 ヶ月	知的障害者	
ゲオ 四万十店	1 年 3 ヶ月	身体障害者	
JA(南国市)	1 ヶ月	〃	
梶原町役場	9 ヶ月	精神障害者(発達障害)	
※株式会社メフォス	1 年 6 ヶ月	〃(高次脳機能障害)	※半年内に退職
※株式会社フタガミ	2 年	〃	

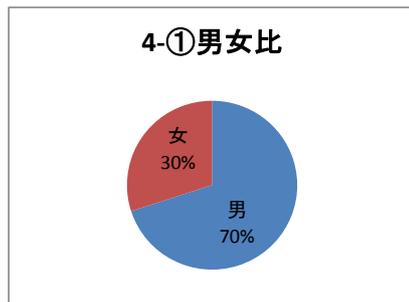
《就労移行支援事業》

参考資料4

○新規利用者

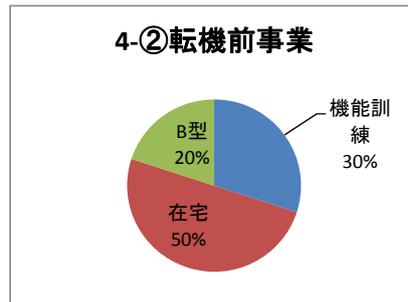
① 男女比

男	7名
女	3名
計	10名



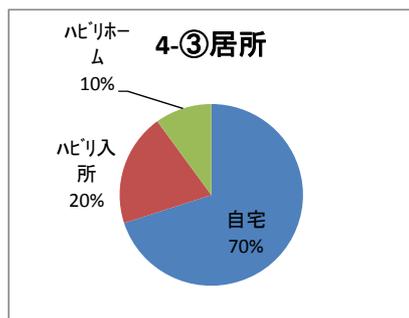
② 転機前事業

機能訓練	3名
在宅	5名
B型	2名
計	10名



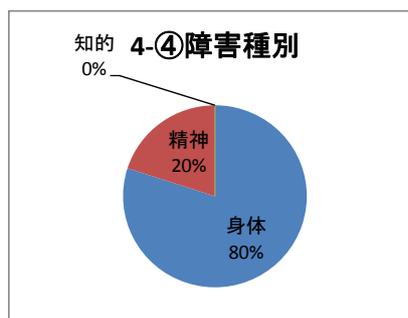
③ 居所

自宅	7名
ハビリ入所	2名
ハビリホーム	1名
計	10名



④ 障害種別

身体	8名
精神	2名
知的	0
計	10名

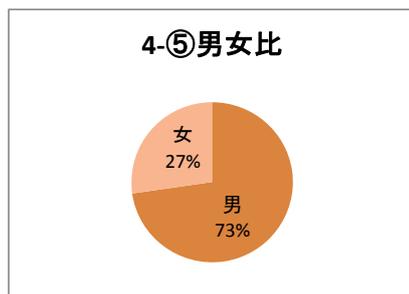


※10名のうち7名が高次脳機能障害者

○利用修了者

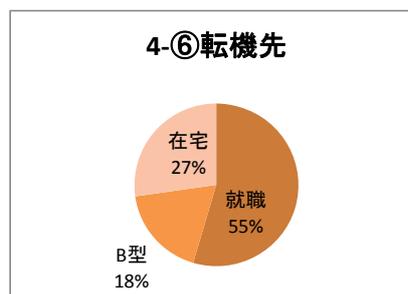
⑤ 終了者

男	8名
女	3名
計	11名



⑥ 11名の転機先

就職	6名
B型	2名
在宅	3名
計	11名



⑦ 6名の就職先と訓練期間

就職先	訓練期間
有限会社 池澤農機商会	1年2ヶ月
安芸福祉保健所	1年
サンシャインクラージュ	1年5ヶ月
ゲオ 四万十店	1年3ヶ月
JA	1ヶ月
橋原町役場	9ヶ月
※株式会社メフォス	1年6ヶ月
※株式会社フタガミ	2年

2名は、就職後半年以内に退職したため就労者としてはカウントされない

2. 訓練の内容

表 1-2

施設内訓練	
作業	耐久性や巧緻性、集中力を身に付け、向上させる事を目的に様々な作業や基礎的学力向上をめざした学習を実施。
座学	履歴書の書き方や電話対応、名刺の渡し方等、社会人として必要となるマナーを身に付けるとともに模擬面接を実施し、就職活動に必要な技能の習得を目指した。 金銭管理を行う為のお小遣い帳の導入や一人暮らしをしていく為に必要な生活経費等について学ぶ時間を取り入れた。
パソコン	実務能力として必要不可欠な入力スピード・正確性の習得を中心に、Word・Excel を使用した実務課題、土木事業における事業設計書作成ソフトの操作練習を実施。毎月の移行通信や金曜日に必要となるチラシやポップの作成を行った。
施設内実習	四国管財で実習前訓練として清掃業務。
施設外訓練	
職場実習	具体的な就労イメージを付けるとともに、適応職種・職場を見つける事を目的に実施。主な実習先：販売業、製造業、介護業、清掃業等
外出訓練	職場見学やハローワーク訪問等、就職活動に繋がる外出に加え、野外活動として金曜市への参加等を実施、また、公共交通機関練習やATM 利用練習等、地域生活における様々な能力の獲得を目的に個別に必要な支援を実施した。 9月19日 障害者雇用合同面接会 参加
駐車場実習 (アルベータ北本町)	四国管財様に業務委託している駐車場管理、洗車。
トライアル雇用	トライアル雇用 (1名) 平成25年10月2日～ 12月31日 店内清掃
委託訓練事業	委託訓練事業 (1名) 平成25年 6月17日～8月16日 品出し、バックヤード業務

3. 企業実習状況

①実習先

実習先一覧(順不同)

表 1-3

22年度		23年度		24年度		25年度	
1	JA 春野	1	サンパ-四万十	1	アルベータ北本町	1	ゲオ四万十店
2	サニ-マ-ト	2	マルカー一条店	2	(株)フォーティ-ス	2	サンシャインクラージュ
3	四国管財	3	ユニコ四万十店	3	サンシャインベルテス	3	サンビ-アゼリス
4	フカミ	4	トヨタ四万十店	4	業務用スーパー-宮店	4	高知ランドリー
5	四国ライフア虹の里	5	新ロイヤル四万十	5	(有)西村謄写堂	5	豚太郎瀬戸店
6	マルニ朝倉店	6	シュ-プラザ四万十店	6	ワ-フ園芸文化舎		
7	せるぼ(A型)	7	フジ四万十店	7	よさこいねっと		
8	青柳	8	グ-ラツェミ-レ	8	平成福祉専門学校		
9	きらり	9	南国病院	9	キタムラビ-ジ-ネソリューション		
10	ユー-ケ-ン(A型)	10	細木病院	10	(有)池沢農機商会		

11	マルナカ土佐店	11	寿工務店	11	高南メディカル		
12	かがみの			12	近森病院北館		
13	ダックス(特例子会社)						
14	ヤマギ						
15	ジグザグ						
16	イト高知						
17	ワークみらい(A型)						
18	カンパザ						
19	キムラ						
20	森光石油						
21	ユニカ土佐道路						
22	近森病院						

②実習状況

表 1-4

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実習回数	11	9	7	4	5	3	2	1		1		
実習者数	7	8	6	4	4	3	2	1		1		
実習企業数	6	5	5	3	3	3	2	1		1		
実習延べ日数	69	68	47	37	37	35	13	2		2		

③外出訓練

表 1-5

外出先	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
職場見学 (全体)	1	1	1	2				1				
職場見学 (個別)	1	1					1				1	
パン販売 (県庁)	2	2	1	1								
ハローワーク	7	7	4	4	5	1	4	4	4	4	4	4
屋外訓練 (金曜市)				3			2			2		1
公共交通機関 練習		4										
外部座学								1	1			

④その他の個別支援

表 1-6

外出先	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
採用面接		3										
職業適性評価											3	1
アフターフォロー	6	4	6		6	1	2	1	1	4	2	3

⑤OB会の開催

表 1-7

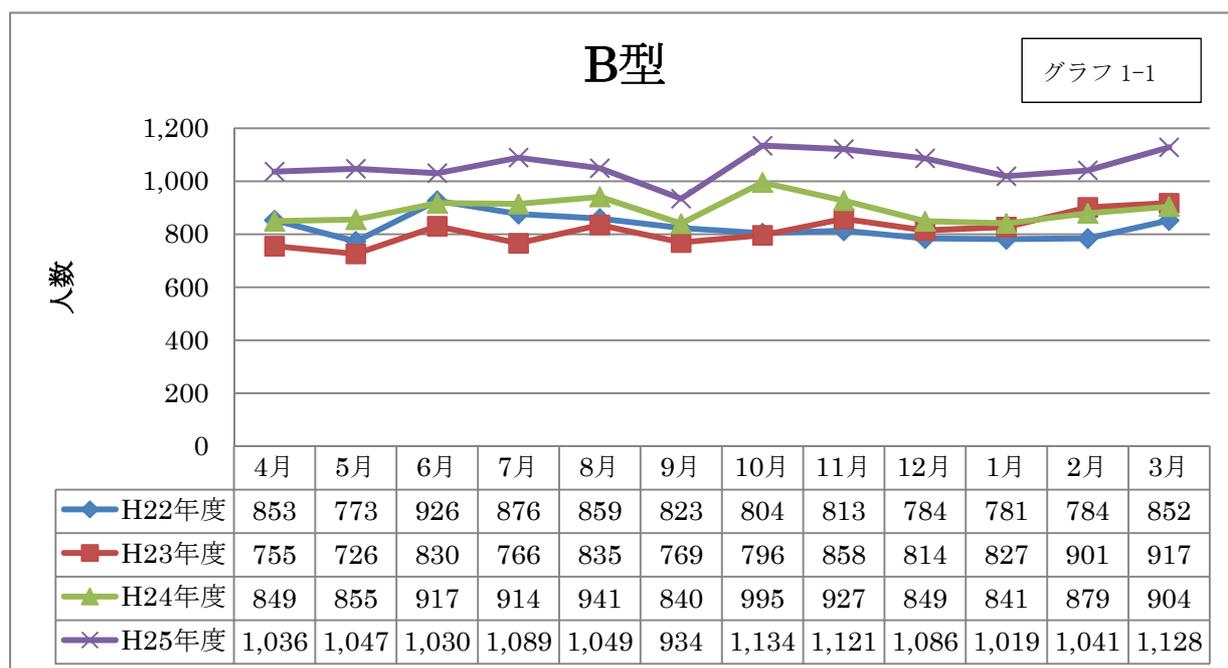
月日	場 所	内 容	参加者数
4月14日(日)	アルパテ、土佐御苑	近況報告、食事会	11名
5月19日(日)	県立美術館	シヤガル展、アルブ リュトジ ャホ 展観覧	9名
6月16日(日)	龍馬の生まれた記念館	観覧	10名
7月21日(日)	棧橋カオケラウジ G&G	近況報告、カラカ	4名
8月18日(日)	横山隆一記念まんが館 タンドテーブル	観覧、近況報告、食事	3名
9月14日(日)	アルパテ、土佐御苑	グループワーク、近況報告、食事会	7名
10月19日(土)	高知よさこい情報交流館 カミノ	観覧、近況報告、お食事会	4名
11月23日(土)	土佐の高知のくだもの畑	みかん狩り	4名
12月21日(土)	高知ハビ リテリング センター会議室	クリスマス会、忘年会	5名
1月11日(土)	高知大神宮、ひろめ市場	初詣、食事会	5名
3月8日(土)	高知中央公園、土佐のおきやく	近況報告、食事会	1名

平成 25 年度 高知ハビリテーリングセンター就労支援事業所
就労継続支援 B 型事業報告

就労継続支援 B 型事業は、利用者個々の障害特性に見合った作業の工夫や作業工程の改善をしつつ、能力に応じた技能の習得を支援すると共に、福祉的就労として工賃を支給し自立意識の高揚と社会復帰意欲の増進を図っています。特に、当センターの B 型は、生産活動科目が多岐にわたること、身体障害者を受け入れられるバリアフリーであることから登録者数は増加傾向にあります。

1. 利用者状況

○就労継続支援 B 型事業の延べ利用者数



参加利用者数は少数ではありますが、日常の生産活動だけではなく、社会参加に繋がる体験やレクリエーションなどを取り入れる土曜日開所が定着してきました。そして、祝日の開所方法や、作業獲得や販路を増やしていく検討、利用頻度を増やす利用者がいたことも要因となり、延べ利用者数はいずれの月もこの4年間で過去最高の数値となっています。(グラフ 1-1)

当資料 27 頁の参考資料 5-②居住先の「ハビリ本館利用者 3 名」は、自立訓練(生活訓練)利用者が B 型との併用利用を行った利用者の数です。当資料 27 頁の参考資料 5-③には障害別に示し、精神障害については 2 名となっていますが、身体障害との重複で精神科処方を受けている方も多く、当資料 27 頁の参考資料 5-⑤のとおり精神面の不安定さから利用頻度を減らす利用者や利用修了者は 12 名となりました。

《就労継続支援B型事業》

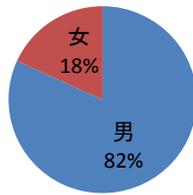
参考資料5

○新規利用者

① 男女比

男	18名
女	4名
計	22名

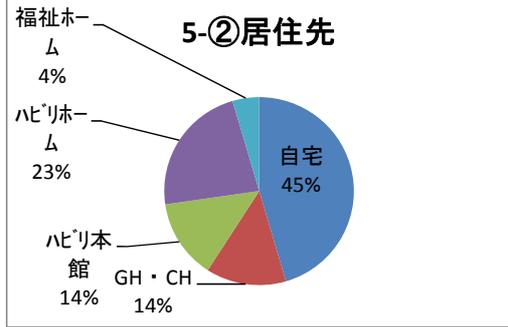
5-①男女比



② 居住先

自宅	10名
GH・CH	3名
ハビリ本館	3名
ハビリホーム	5名
福祉ホーム	1名
計	22名

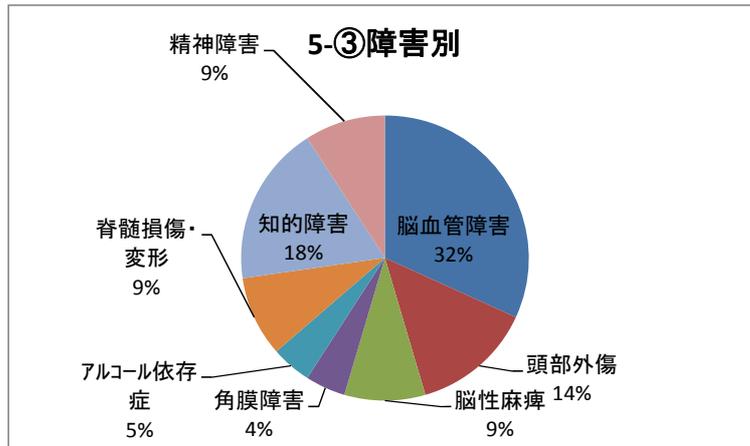
5-②居住先



③ 障害別

脳血管障害	7名
頭部外傷	3名
脳性麻痺	2名
角膜障害	1名
アルコール依存症	1名
脊髄損傷・変形	2名
知的障害	4名
精神障害	2名
計	22名

5-③障害別



○利用修了者

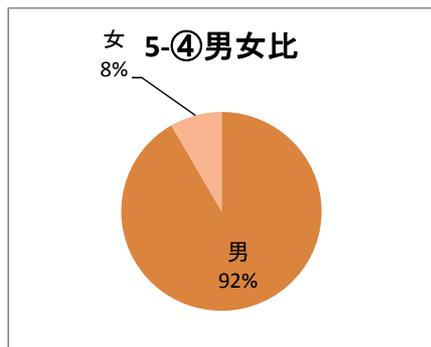
④ 修了者

男	11名
女	1名
計	12名

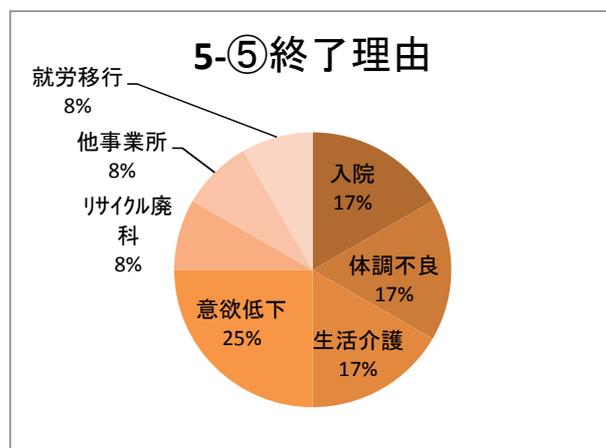
⑤ 終了理由

入院	2名
体調不良	2名
生活介護(ハビリ)	2名
意欲低下	3名
リサイクル廃科	1名
他事業所	1名
就労移行(ハビリ)	1名
計	12名

5-④男女比



5-⑤終了理由



2. 実習生の受け入れ状況

表 1-1

	性別・学年	学校名・期間・その他	
①	(男)3年生	日高養護学校 5/20(月)～5/31(金)、10/15(月)～10/25(金)	○
②	(男)2年生	日高養護学校 11/5(火)～11/15(金)	
③	(男)3年生	若草養護学校 6/3(月)～6/13(木)、10/28(月)～11/15(金)	×
④	(女)1年生	若草養護学校 10/29(火)～10/31(木)	
⑤	(男)3年生	山田養護学校 10/16(水)～10/18(金)	×
⑥	(男)1年生	市立養護学校 10/28(月)～11/8(金)	
⑦	(男)1年生	山田養護学校 10/28(月)～11/8(金)	

(○印は当センター利用となった方)

3. 生産活動

表 1-2

作業科目	作業内容
農芸科	畑作業(土作り、草引き、種まき、野菜の洗い、出荷準備、配達) なす袋詰め作業
印刷科	封筒印刷、名刺、広報誌、ハガキ、処方箋等の印刷仕上げまでの作業 工程の中で ①制作部…入力、データ作業、画像補正、校正 ②仕上げ…紙折り、検品
軽作業科	脂取り紙の加工作業、DM袋入れ作業、封筒三つ折り作業 箱製作(手折り)
クリーニング科	病院スタッフユニフォーム洗濯、シーツ類洗濯、利用者私物洗濯 シーツ交換、洗剤詰め替え
パン工房科	パンの製造、販売

4. 取引先リスト(個人取引除く)

表 1-3

科名	業者名
農芸科	・近森産業 ・社会医療法人近森会 ・(株)日清医療食品 ・高南メディカル ・はるの若菜荘 ・たていし(弁当屋) ・(有)五藤青果
印刷科	・永井病院・県立障害者スポーツセンター ・日本珊瑚協会 ・宝樹 ・聖園ベビーホーム ・川上装飾 ・円受寺 ・高知県(障害保健福祉課) ・はるの森澤クリニック ・青い空 ・ティー・エス・エー企画 ・和田書房 ・あじさい園 ・聖園天使園 ・西内珊瑚 ・市原珊瑚 ・木内工芸 ・(有)タカハシ ・はるの若菜荘 ・前川珊瑚工房 ・ふたばクリニック ・若草養護学校 ・高知県珊瑚協会 ・高知県作業療法士会 ・ヘルパーステーション えのくち ・(株)エヌ・シー・ビー ・高知高齢、障害者雇用支援センター ・さぼーとぴあ ・社会医療法人近森会
軽作業科(本館) (箱製作)	・富士紙化学(株) ・こうち生活協同組合 ・障害者職業センター ・桂 ・福辰 ・吉永 ・土佐蒲鉾 ・高知大丸 ・(株)満天の星

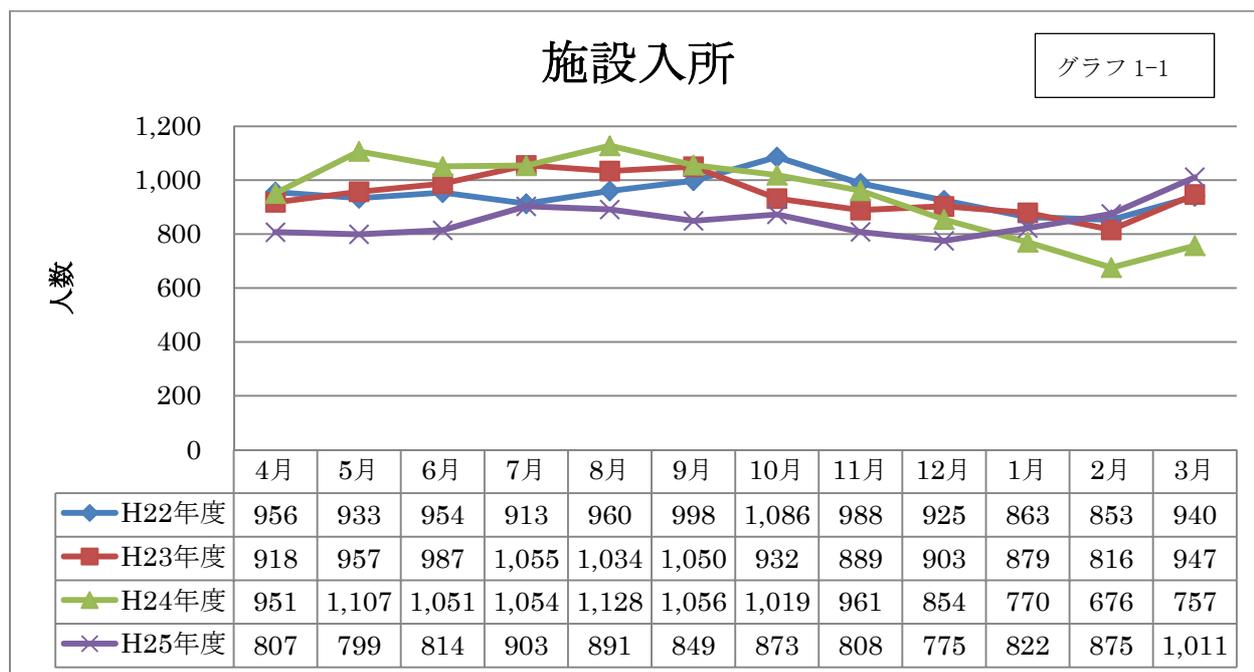
	・(株)サヌキ印刷 ・池一菜果園 ・(株)浜幸
クリーニング科	・社会医療法人近森会
パン工房科	・誠和園 ・聖園天使園 ・永井病院 ・三愛病院 ・社会医療法人近森会 ・ウェーブ ・ハビリ ・はるのハビリホーム ・高知県庁 ・平成福祉専門学校 ・高知県立療育福祉センター

平成 25 年度 障害者支援施設 高知ハビリテーリングセンター
施設入所支援事業報告

施設入所支援事業は、自立訓練、就労移行、生活介護利用者で在宅生活が困難な利用者の夜間支援であり、日中支援のサービス期限が入所期限とされています。12月より自立訓練部支援員との夜勤や入浴介助を行うことで情報交換の機会が増え、これまで以上に双方が支援に関する共通認識を持つことができるようになりました。

1. 利用者状況

○施設入所支援の延べ利用者数



入所については、特に 8 割～9 割稼働を目標としてきましたが、毎年度末、目標未達成の反省をしていました。1月より高知県下の病院に改めて営業活動を始めた結果、2～3月頃からは利用相談が相次ぎ、グラフ 1-1 に示すように年明けからは延べ利用者数も上昇し、26 年度早々からは満床の予測ができるようになりました。

当資料 31 頁の参考資料 6-②に示すように 30 名中 7 名の方が在宅から入所されていますが、高次脳機能障害があることで家族の介護疲れがあり、こちらから入所を提案させていただいた場合もあります。また、児童養護施設や触法の方には入所施設が必須となり、25 年度は 3 名の入所がありました。

当資料 31 頁の参考資料 6-③には障害名を示していますが、脳血管障害、頭部外傷、精神障害で 82% を占めており、これは高次脳機能障害(疑いを含む)となっています。

退所先(当資料 31 頁の参考資料 6-⑤)としては、再発やレベルダウンによる退所は 2 名であり、例年よりは少なかったように思いますが、ハビリホームからレベルダウンによる入所は 1 名でした。加齢に伴うレベルダウンであり、介助量が増え、安全面を考えて夜勤体制のある本館に夜間支援の場を変更しました。

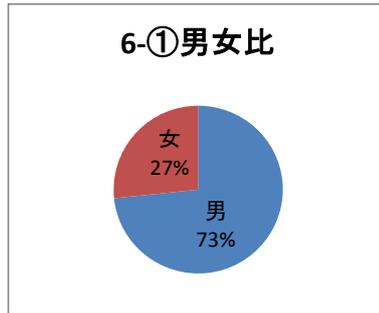
《施設入所支援事業》

参考資料6

○新規利用者

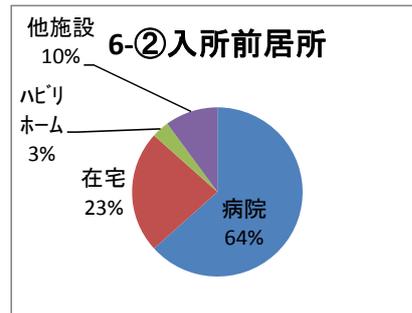
① 男女比

男	22名
女	8名
計	30名



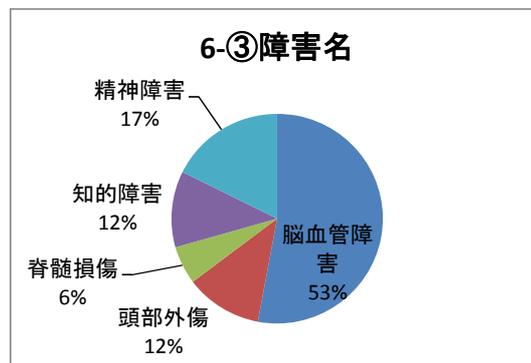
② 入所前居所

病院	19名
在宅	7名
ハビリホーム	1名
他施設	3名
計	30名



③ 障害名

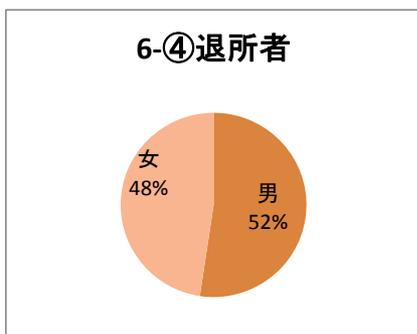
脳血管障害	9名
頭部外傷	2名
脊髄損傷	1名
知的障害	2名
精神障害	3名
計	30名



○利用修了者

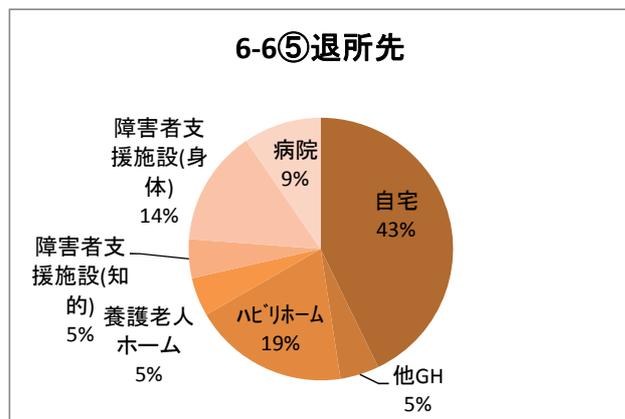
④ 退所者

男	11名
女	10名
計	21名



⑤ 退所先

自宅	9名
他GH	1名
ハビリホーム	4名
養護老人ホーム	1名
障害者支援施設(知的)	1名
障害者支援施設(身体)	3名
病院	2名
計	21名

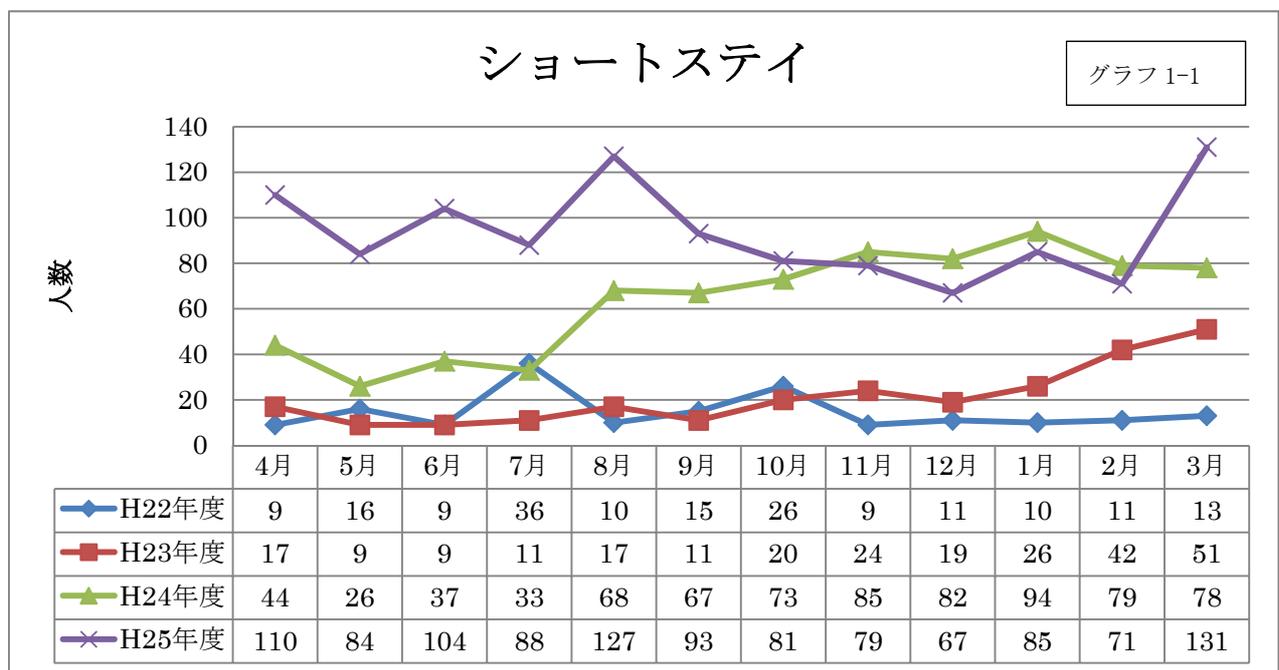


平成 25 年度 障害者支援施設 高知ハビリテーリングセンター
短期入所支援(空床型・併設型)事業報告

短期入所支援利用中に何らかの日中支援サービスを希望されるようになり、定期的な利用をすることで家族も利用者も在宅生活とのバランスを保たれているように思われます。また、緊急時のためにと登録者数が増えており(表 1-1)、主たる介護者である家族の高齢化に対する不安が感じられます。これまでは入所の空床利用ができていましたが、施設入所 40 床が満床となれば、併設型 2 部屋の活用調整を円滑に行い、これまで同様に在宅支援をしていきたいと考えます。

1. 利用者状況

○短期入所支援の延べ利用者数)



○利用登録者数

表 1-1

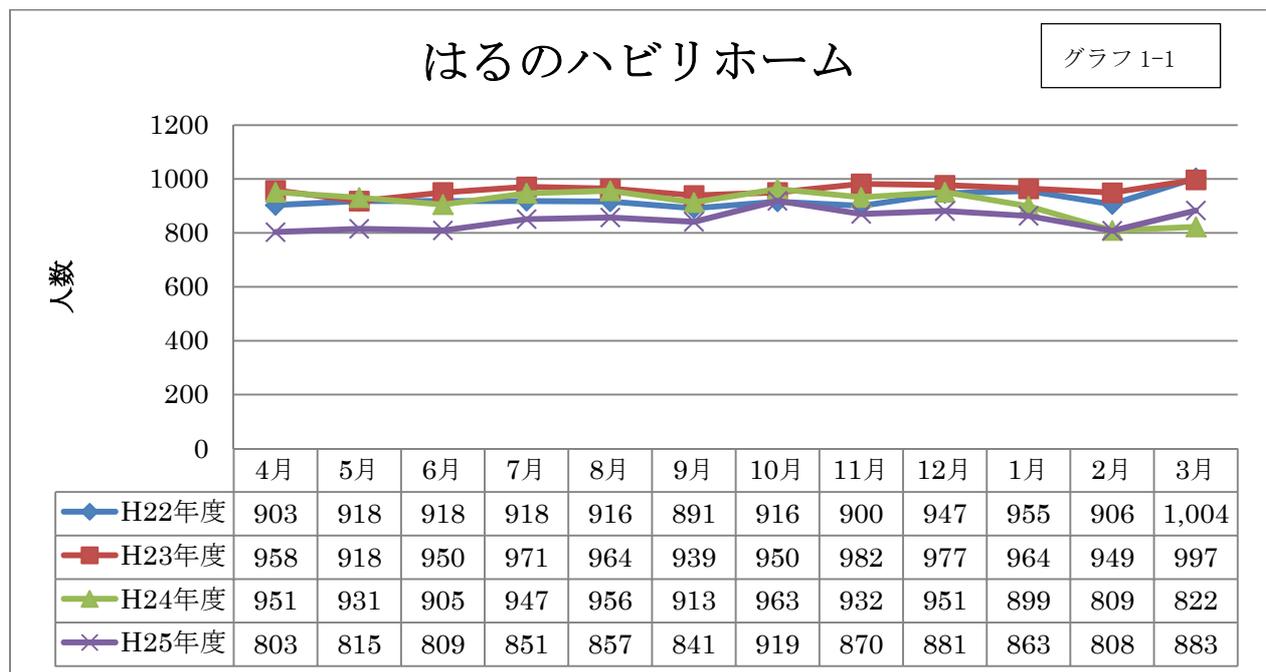
年度	新規登録者数
平成 22 年度	8 名
平成 23 年度	13 名
平成 24 年度	21 名
平成 25 年度	24 名
合計	66 名

平成 25 年度 はるのハビリホーム
共同生活援助(GH)・共同生活介護(CH)事業報告

共同生活援助・共同生活介護事業は、1 ユニット 6 名定員で 6 ユニット、3 タイプの部屋があり、利用者の求める生活スタイルにより近い部屋を選び、更なる地域移行を目指した訓練的要素を持つ住まいの場です。また、入居の年齢制限を 65 歳としており、新規利用者也受け入れができるように通過型の GH・CH であることもはるのハビリホームの特長です。

1. 利用者状況

○はるのハビリホーム延べ利用者数



25 年度の平均利用者数は 30 名を下回っており、グラフ 1-1 の延べ利用者数は、低位で変動しています。当資料 34 頁の参考資料 7-②に示すように、新規入居者は、7 名のうち 4 名がハビリ本館から入居しています。

ハビリホームでの体験を繰り返しながら、一人暮らしへの自信づけや準備をしていくことができる環境であり、ハビリホーム退去後の一人暮らしのイメージづくりもできるため非常に活用されたい GH・CH だと考えますが、入居者数としては思いの外増えませんでした。

当資料 34 頁の参考資料 7-⑤に退去理由を挙げていますが、自宅 2 名につきましては、1 名は実家近くへの就職が決まったことで自宅復帰され、もう 1 名は新たな住居を構えたことによる退居です。このように障害特性や状態に応じて、はるのハビリホームでの入居・生活目標は違ってくるため、中間施設としての機能を持つ GH として稼働率を上げていく努力を要します。

《はるのハビリホーム》

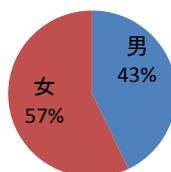
参考資料7

○新規利用者

① 男女比

男	3名
女	4名
計	7名

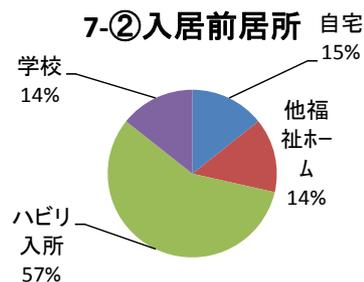
7-①男女比



② 入居前居所

自宅	1名
他福祉ホーム	1名
ハビリ入所	4名
学校	1名
計	7名

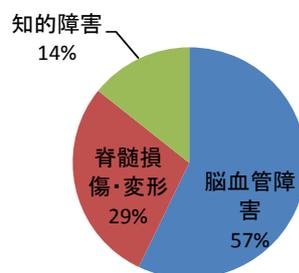
7-②入居前居所



③ 障害名

脳血管障害	4名
脊髄損傷・変形	2名
知的障害	1名
計	7名

7-③障害名

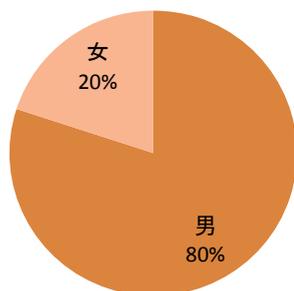


○利用修了者

④ 退居者

男	4名
女	1名
計	5名

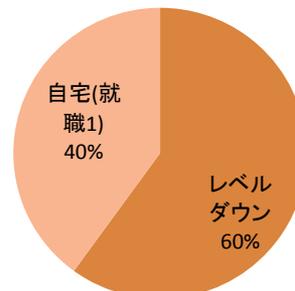
7-④退居者



⑤ 退居理由

レベルダウン	3名
自宅(就職1)	2名
計	5名

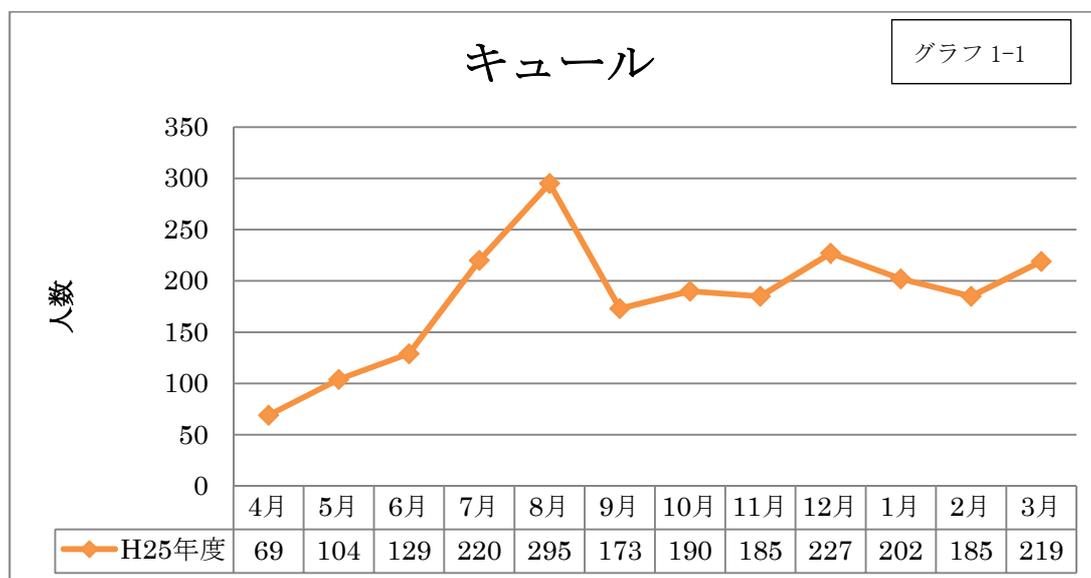
7-⑤退去理由



平成 25 年度 高知ハビリテーリングセンター放課後等デイサービス
「キュール」 事業報告

25 年度 4 月 1 日より開所した新規事業です。当初は、春野近辺の学校や相談支援事業所等への広報活動に努めましたが、しだいに保護者間のネットワークにより利用相談件数はしだいに増えていきました。グラフ 1-1 に示しますように、7 月、8 月、12 月、3 月の長期休暇中の利用児数が最も多くなっています。

1. 利用児状況(延べ利用児数)



当資料 36 頁の参考資料 8-②に登録利用児数 74 名を障害種別に表しました。当センターの近くには肢体不自由児の特別支援学校があり、そちらからの利用や肢体不自由児が多いものと想定しておりましたが、発達障害児が 75%を占めています。登録したものの未利用児は 18 名であり、25 年度の利用児は 56 名となりました。その 56 名の障害種別を当資料 36 頁の参考資料 8-②' に示しましたが、発達障害児は 41 名であり全体の 73%を占めております。また、32 名の児童が他事業所との併用利用しており、ハビリのみを利用している児童は 24 名となっています。

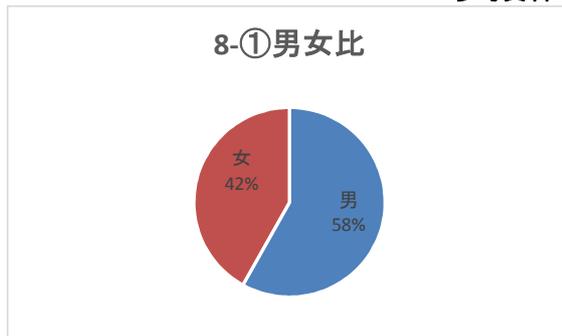
発達障害児が多く個別対応が必要であること、送迎先が分散している、そして成人の送迎と重なるため、専任 3 名の支援員での支援は困難であり、他部署やボランティアの協力を得ている状況です。特に、長期休暇中は、朝から夕方まで連日 15 名の利用となるため職員の動員を行っています。

《キュール》

参考資料8

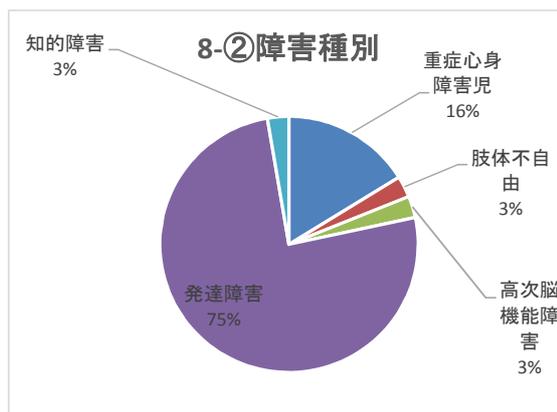
① 男女比

男	43名
女	31名
計	74名



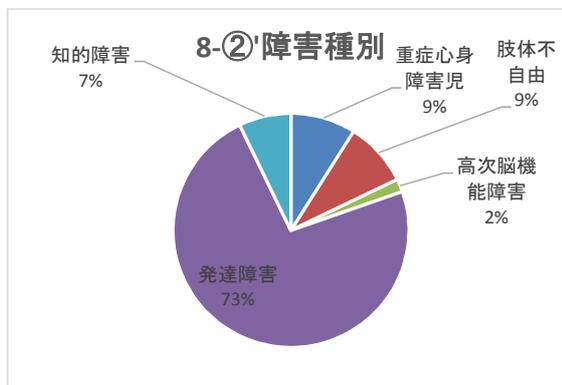
② 障害種別(登録者)

重症心身障害児	12名
肢体不自由	2名
高次脳機能障害	2名
発達障害	56名
知的障害	2名
計	74名



②' 障害種別(既利用児)

重症心身障害児	5名
肢体不自由	5名
高次脳機能障害	1名
発達障害	41名
知的障害	4名
計	56名



	プログラム(遊び)	内 容
1	室内遊び	積み木、プラレール、ゲーム(Wii)、テレビ鑑賞、音楽遊び 絵本(読み聞かせ)、わらべうた遊び 音楽療法(1回/月)---講師委託
2	室内レク	風船バレー、背中文字当て遊び、トランプ、バランスボール 室内ドッチボール
3	野外活動	散歩、サッカー、長縄遊び、マラソン、リレー遊び、野球 ドッチボール、キャッチボール、鬼ごっこ、相撲、かくれんぼ
4	長期休業のイベント	スポーツセンターでのレク活動、ドライブ、プール、おやつ作り
5	学習支援	宿題、課題プリント

3. 保護者との連携、関わり

- 連絡ノート-----毎日の報告、伝達
- キュール通信---毎月の発行、児童のキュールでの様子、お知らせ等
- 懇親会-----年に関わり

4. 土曜日開所に関するアンケート調査の実施

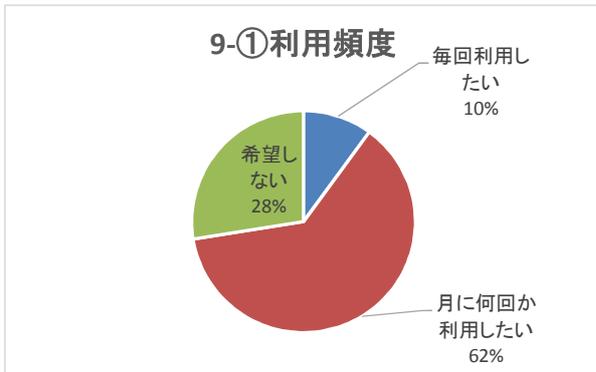
「療育リハビリに通所させたい」「ST 訓練をしてくれる病院がない」という保護者の声を開設前から耳にしていたこともあり、キュール利用児の保護者に土曜日開所について聞き取り調査を実施しました。配布は、実施月までの既利用児の保護者 41 名に行いました。回答数は 97. %であり、その結果については、当資料 38 頁の参考資料 9 に示しています。

当資料 38 頁の参考資料 9-①の利用頻度については、「毎回利用したい」という回答はわずか 10%であり、こちらの予想を下回る回答でした。今後、土曜日の開所については、当資料 38 頁の参考資料 9-④の自由記載の要望等を参考にしながら検討していきたいと考えます。

土曜日開所に関するアンケート 集計結果

配布日:平成26年2月5日 ~ 回答期限:平成26年2月15日

配布数:41 回答数:40 (回収率97.5%)

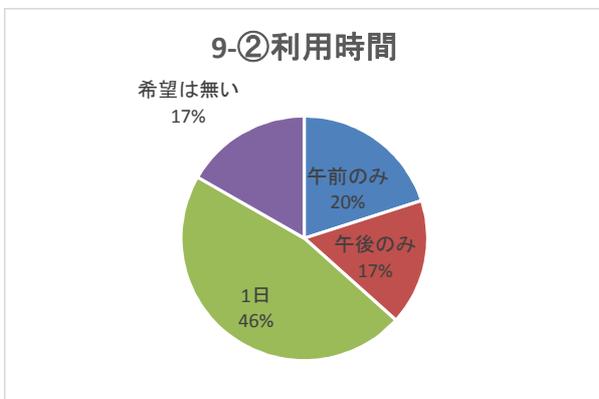


①利用頻度

利用頻度	人数
毎回利用したい	4名
月に何回か利用したい	25名
希望しない	11名
計	40名

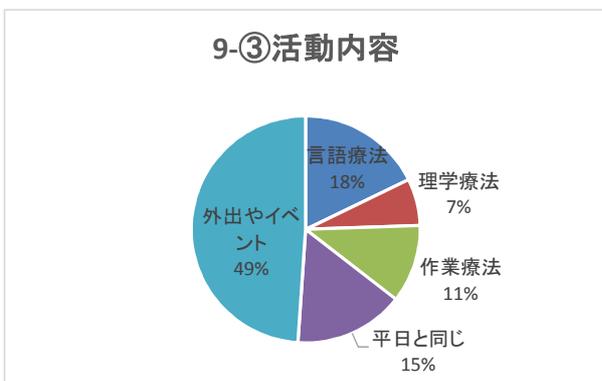
その他

- ・月曜が祝日で3連休になる際に利用したい
- ・兄弟の行事がある際に利用出来ると良い



②利用時間

利用時間	人数
午前のみ	6名
午後のみ	5名
1日	14名
希望は無い	5名
計	40名



③活動内容

活動内容	人数
言語療法	8名
理学療法	3名
作業療法	5名
平日と同じ	7名
外出やイベント	22名
計	40名

その他(自由記載)

- ・障害者スポーツセンターの利用
- ・参観日や、保護者の交流が出来るような機会があれば良い
- ・子供の年齢差、障害特性の違いなどを考慮した上で、少人数での具体的なスケジュールを用いた活動。(個別支援計画を練る上での担当支援員とのやり取りを重視した活動の時間として)
- ・外遊びは好きなのでしてもらいたい
- ・外出＝公園の遊具で遊ぶ・散歩する・プール・音楽療法・トランポリンは好き。
しかし、毎回同じパターンでのスケジュールが安心する。人が多すぎず、内容がシンプルなものが良い。
- ・外に行って粗大運動が出来るとか、わんぱーくなど動物園などが大好きなので、可能であればぜひ行ってほしい。
- ・土曜日のみの利用は可能だろうか?また、職員の先生方は普段と同じ人に見てもらえるのか?
- ・平日の預かりの流れの中に(PECS)や課題としてのOTを組み込んでもらえると良い。

言語療法

- ・スケジュールで示したものを課題で2～3個(マッチングなど)
- ・ソーシャルストーリーなどをお願いしたい
- ・コミュニケーションスキルの向上、読み・書き・理解の向上
- ・発語を促す
- ・PECS
環境設定をして(要求を引き出す工夫)行う。平日の利用の中でも出来れば良い。
- ・いつまでも舌足らずで良いのかと思っている

理学療法

- ・具体的にはどんなことをしてもらえるのか?

作業療法

- ・感覚遊び
- ・手先を使うことの練習。お箸、鉛筆などもかなり上手に持てるようになってきたが、「傘をくるくる巻いて止める」などはまだできない。
他の事で指先を使う遊びみたいなことをくり返すことで、少しずつでも器用になっていくのかなと思っているが、どうなのか?逆にどんなことが良いのか教えてもらいたい。ただ、「訓練」みたいになると、やらないと思う。
- ・作業的課題を作ってもらい、個別課題として取り組んでもらう…スケジュールで課題の時間と、課題を作る場所を設定する。

平成 25 年度 高知ハビリテーリングセンター
一般・特定・障害児相談支援事業報告

<一般相談支援事業>

○地域移行支援

地域移行支援では自宅や一人暮らし、GHなどを目標としている施設入所利用者に対して、主に生活場所の検討・確保、日中活動先の見学、転居先での必要物品の準備等を行ってきました。退所日より6ヶ月前を目途に地域移行支援を提供すべきですが、退所日の1~2ヶ月前に利用開始となったこともあり、地域移行支援の利用開始時期が出遅れた点が反省です。表 1-1 に地域移行の登録者数を示しますが、施設入所利用者で対象となった14名に対して13名の登録ができました。

■地域移行の登録者数および修了者数

表 1-1

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
登録者数	0	2	1	1	0	3	0	0	0	3	3	0	13
終了者	0	0	0	1	0	1	2	1	0	0	1	2	8

○地域定着支援

地域移行した方（GH・CHの方は対象外）の生活が安定する様、月に1回の自宅訪問や通所で来られた際に生活状況等の確認をしました。緊急支援に該当する方はいみせんでしたが、てんかん発作にて救急搬送された方をショートステイでお受けし、自宅に復帰したケースが1件ありました。

■地域定着の登録者数と修了者数

表 1-2

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
登録者数	0	1	1	0	1	1	1	0	1	0	1	0	7
終了者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

<特定相談支援事業>

前半は、制度の理解や市町村毎に異なる申請の流れ等を把握する事や、サービスの支給要件やサービス提供事業所の把握が出来ておらず時間を要しました。当センターの新規利用者を中心に、しだいに受給者証更新のタイミングで既利用者への介入をしてきました。

表 1-5 に示しますように、既に1名で当センターの利用者94名の計画書を書いておりますが、他ソーシャルワーカーや各事業の支援員との連携により、円滑に、なおかつ適正な利用者やご家族の意向に寄り添う相談支援ができています。当センターの利用者を主としているため、計画的に能率よく面接や訪問調整ができやすい環境にあることはメリットであり、全ての計画書は、提出前に報告、内容についての確認ができる流れにしています。

そして、18市町村のサービス等利用計画を作成しています。(当資料41頁の表1-4)これは、入所、入居施設があるため、非常に多岐にわたるのだと考えられます。

■利用者推移（請求処理を元に集計）

表 1-3

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新規	9	13	7	10	4	9	6	5	7	11	4	14
終了	0	0	0	1	0	1	3	0	3	0	1	1
累計	9	22	29	38	42	50	53	58	62	73	76	89
更新・変更	0	1	3	2	2	2	6	6	1	2	8	7
モニタリング	0	5	11	16	18	14	21	24	22	23	10	19

■市町村別 契約利用者数

表 1-4

市町村	高知市	南国市	香美市	香南市	安芸市	室戸市	土佐清水市	土佐市	中土佐町	佐川町	いの町	田野町	大豊町	四万十町	津野町	芸西村	仁淀川町	香芝市
人数	61	7	3	2	2	2	2	1	3	3	2	2	1	1	1	1	1	1

※平成 26 年 3 月 28 日現在の人数を記載

■特定相談支援事業所利用状況

表 1-5

利用サービス	登録者数	ハビリテリングセンター	他事業所	残人数
機能訓練	31	27	2	2
生活訓練	11	9	0	2
生活介護	8	6	0	2
就労移行支援	11	10	1	0
就労継続支援 B 型	69	36	9	24
ハビリ以外のサービス	6	6	0	0
合計（障害者）	137	94	13	30
キュール（障害児）	74	1	5	68

<障害児相談支援事業>

25 年度については、冒頭の総評にも述べておりますように、障害児相談支援専門員は、営業、利用相談から開始までの業務、児童の直接支援に臨んでいたため、相談支援事業の実績はあげられませんでした。上の表 1-5 にあります利用児 1 名については、当センターのショートステイ利用をするにあたってサービス等利用計画が必要となり作成したものです。

H25 年度 高次脳機能障害支援拠点委託事業 「高次脳機能障害相談支援センター」事業報告

総評

25 年度 1 月には、県障害保健福祉課が事務局を担い、各専門職団体推薦による代表に県知事の委嘱委員で構成された「高次脳機能障害支援委員会」が設置されました。そして、この委員会には、5 圏域の福祉保健所より 1 名ずつの代表がオブザーバーとして出席することになりました。これは、各委員には高次脳機能障害支援について各団体に内容を深めてもらうこと、各圏域の県行政にも高次脳機能障害支援に関与してもらうことを期待した県と当センターの見解によるものです。

24 年度に県と共同実施した高次脳機能障害者の資源調査の結果報告ができるように県から承諾を得られたのは 25 年度の 1 月でしたが、当センターとしては 25 年度内にアンケート調査の協力機関に報告会を実施しておきたい意向もあり、「資源調査報告会」については県障害保健福祉課、「高次脳機能障害とは」については当センターが説明を行い形で 5 圏域ごとに地域研修会として開催しました。参加者の職種ならびに参加者数を 当資料 46 頁 の表 1-6 に示しますが、予想を上回る参加者となりました。また、この研修会につきましては、1 月 17 日に開催した第 1 回目支援委員会後であり、会場の手配や案内には各圏域の福祉保健所オブザーバーの協力を得ることができ準備がスムーズに運びました。

以上の 2 点につきましては、高知県下の高次脳機能障害者支援の充実に向けては、民間の一法人のみでは限界があることから、行政とパートナーシップで進めていかなくてはならないことを強調し続けてきたことであり、今後の高次脳機能障害支援に関する高知県下のネットワーク化に向けて、大きな前進が図れたものと受け止めています。

そして、高次脳機能障害者への訓練方法や支援のノウハウについては、高知県下のいずれの事業所や機関も模索しながら向き合っている現状です。そこで、支援拠点に求められることの 1 つとして、高次脳機能障害者の支援者として高知ハビリテーリングセンター職員がスキルアップし、高次脳機能障害者の社会復帰訓練施設としての機能を果たすことを期待されています。また、他事業所の勉強会や研修の講師、アドバイザーができる力をつけることです。

これまでは、相談窓口として支援コーディネーターが主となってきましたが、25 年度からは、全職員に対してその意識高揚と知識・教養を深めるための研修を実施しました。

全国的に見ても高知県のように社会福祉法人に支援拠点を委託している県は多くありません。しかし、受託する以上は、社会福祉法人であるデメリットを他機関との連携強化によってメリットに変遷していき、高知県における高次脳機能障害当事者や家族支援の充実に向けて展開していきます。

1. 活動報告

表 1-1

5月	12日	高次脳機能障害実践的アプローチ講習会 第1回(東京)
	25日	高次脳機能障害者家族教室開催(高知ハビリテーリングセンター)
6月	22日	高次脳機能障害ファシリテーター養成講座
	25日	平成25年度 第1回支援コーディネーター全国会議(埼玉)
	26日	平成25年度 高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業(埼玉) 第1回高次脳機能障害支援普及全国連絡協議会 及び 第1回厚生労働省科学研究費 「高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究」全体会議
	26日~28日	平成25年度 高次脳機能障害支援事業関係職員研修会(埼玉)
	29日	平成25年度 高次脳機能障害研修会 「脳のリハビリ講習会~記憶障害編~」
8月	11日	高次脳機能障害実践的アプローチ講習会 第2回(東京)
9月	27・28日	日本脳外傷友の会全国大会 第13回全国大会2013in おおいた(大分) ~周りの理解が最大の補助具~
10月	5日	ナスバ交流会
	27日	2013高知 高次脳機能障害リハビリテーション講習会 高次脳機能障害対応のこつ~子供も大人も~
	31日	高次脳機能障害支援ネットワーク会議(打ち合わせ)
12月	8日	高次脳機能障害実践的アプローチ講習会 第3回(東京)
	17日	高次脳機能障害支援拠点職員のための専門研修会Ⅰ 宮本寛先生 16:30-17:30『脳の構造について』
1月	17日	第1回高次脳機能障害支援委員会
2月	1日	高次脳機能障害支援拠点職員のための専門研修会Ⅱ 中島恵子先生 10:00-12:00『脳のメカニズム』 13:00-15:00 WAIS-Ⅲの見方について 平成25年度高次脳機能障害者支援地域研修会(5圏域)
	17日	中央東ブロック 14:00-16:00
	20日	安芸ブロック 13:30-15:30
	24日	幡多ブロック 13:30-15:30
	26日	須崎ブロック 13:30-15:30
	20日	H25年度第2回支援コーディネーター全国会議
	21日	H25年度第2回高次脳機能障害支援普及全国連絡協議会 第2回厚生労働省科学研究費「高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究」全体会議等
3月	3日	平成25年度高次脳機能障害者支援地域研修会(5圏域) 中央西ブロック 13:30-15:00

2. 相談業務

○のべ相談件数

表 1-2

	面接	電話	訪問	カンファレンス	合計
4月	1件	4件	0件	0件	5件
5月	0件	5件	0件	0件	5件
6月	0件	7件	0件	0件	7件
7月	2件	11件	1件	1件	15件
8月	3件	15件	1件	0件	19件
9月	1件	20件	0件	2件	23件
10月	0件	7件	0件	1件	8件
11月	0件	13件	0件	1件	14件
12月	0件	8件	0件	0件	8件
1月	0件	8件	0件	2件	10件
2月	0件	1件	0件	0件	1件
3月	0件	0件	0件	0件	0件
合計	7件	99件	2件	7件	115件

○上記の件数の内、新規相談件数 表 1-3

4月	1件
5月	2件
6月	4件
7月	3件
8月	1件
9月	4件
10月	3件
11月	1件
12月	1件
1月	2件
2月	1件
3月	0件
合計	23件

○上記のべ相談件数の内、コーディネーターが関係機関に対して各々行った件数

表 1-4

	面接	電話	訪問	カンファレンス	合計
4月	0件	3件	0件	0件	3件
5月	0件	2件	0件	0件	2件
6月	0件	6件	0件	0件	6件
7月	1件	10件	1件	1件	13件
8月	0件	10件	1件	0件	11件

9月	1件	16件	0件	2件	19件
10月	0件	2件	0件	0件	2件
11月	0件	10件	0件	0件	10件
12月	0件	4件	0件	0件	4件
1月	0件	2件	0件	1件	3件
2月	0件	0件	0件	0件	0件
3月	0件	0件	0件	0件	0件
合計	2件	65件	2件	4件	73件

3. 研修会

①「高次脳機能障害者家族教室」

開催日時：平成25年5月25日（土） 14:00～16:00

開催場所：高知ハビリテーリングセンター

講師：近森リハビリテーション病院 臨床心理士 和田 寿美氏

当日参加者：7名（家族：6名、心理士：1名）

②「専門職向け研修会」活動報告

開催日時：平成25年6月29日（土） 10:00～15:00

開催場所：近森病院 管理棟3階 会議室2・3

講師：帝京平成大学大学院 教授 中島 恵子先生

研修名：「脳のリハビリ講習会～記憶障害編～」

○当日参加者数81名の職種内訳 表1-5

医師	2名
看護師	13名
P T	12名
O T	7名
言語聴覚士	10名
M S W	4名
ケアマネージャー	8名
心理士	8名
介護福祉士	5名
保健師	4名
その他	8名
合計	81名

③高次脳機能障害支援拠点職員のための専門研修会 I

開催日時：平成25年12月17日（火） 16:30～17:30

開催場所：高知ハビリテーリングセンター会議室

講師：南国中央病院 副院長 宮本 寛先生

当日参加者数：32名（高知ハビリテーリングセンター職員）

④高次脳機能障害支援拠点職員のための専門研修会Ⅱ

開催日時：平成26年2月1日(土) 10:00～15:00

開催場所：高知ハビリテーションセンター会議室

講師：帝京平成大学大学院教授 中島 恵子先生

当日参加者数：40名（高知ハビリテーションセンター職員）

⑤「平成25年度 高次脳機能障害者支援地域研修会」5圏域

表1-6

	中央東	安芸	幡多	須崎	中央西	合計
開催日	2/17	2/20	2/24	2/26	3/3	
医師	1	0	1	0	0	2
看護師	8	5	3	2	9	27
PT	2	1	1	0	2	6
OT	2	1	1	4	3	11
ST	1	0	2	0	2	5
PSW	1	0	0	0	2	3
MSW	5	3	6	3	4	21
ケアマネジャー	3	10	7	8	23	51
心理士	0	0	0	0	0	0
介護福祉士	2	0	4	0	1	7
保健師	6	3	11	1	8	29
訪問介護員	2	2	3	2	2	11
指導員	0	1	0	0	1	2
支援員	8	0	3	2	8	21
サービス管理責任者	1	2	4	1	0	8
相談支援専門員	2	2	2	1	1	8
弁護士	0	3	0	3	2	8
その他	10	2	2	4	10	28
記載なし	0	1	0	4	0	5
合計	54	36	50	35	78	253

高知ハビリテーリングセンター(全体)報告

1. 文化・芸術活動、スポーツ活動参加

表 1-1

月 日	行 事
4 月 2 日	花見(お食事会) 雨天のため屋内での食事
5 月 25 日	青空げんきフェスタ(B 型)
6 月 2 日	高知県障害者スポーツ大会
6 月 4・5・6・11・12・13 日	健康診断(施設入所)
6 月 11 日	深沢繁人さんコンサート
6 月 23 日	自立訓練、生活介護遠足(ヤシィパーク)
6 月 24 日	利用者問診、健診結果説明
7 月 11 日	七夕納涼お食事会
7 月 21 日	頭脳スポーツ大会(オセロ、将棋)
7 月 24 日	アビリンピック(16 名参加)
8 月 9 日	丑之助学園踊り見学
8 月 10 日	近森会よさこいチーム踊り見学
8 月 25 日	夏祭り
10 月 4-14 日	スピリットアート(「奇跡の一本松」入選)
10 月 26 日	ハビリ秋の収穫祭(栗原先生 健康講座)
11 月 1-3 日	春野町文化祭
11 月 4 日	B 型交流イベント(バーベキュー)
12 月 1 日	ポッチャ大会
12 月 28 日	餅つき、お餅代渡し
1 月 26 日	駅伝大会
2 月 11 日	卓球バレー
3 月 28 日	花見

2. 利用者の健康管理

《健康診断実施状況》

○施設入所者：2 回実施

第 1 回目：6 月 (27 名)

* 第 1 回健康診断項目：胸部 X-P・血液検査・検尿・視力・聴力検査・血圧測定
体重測定・腹囲測定・医師の問診と診察

第 2 回目：1 月・3 月 (24 名)

* 第二回目診断項目：血圧測定・体重測定・腹囲測定・医師の問診と診察

○就労継続 B 型・就労移行利用者：1 回

第 1 回：9 月・10 月 (56 名)

* 健康診断項目：血圧測定・体重測定・腹囲測定・医師の問診と診察

3. 管理栄養士の新たな取り組み

療養食の充実、選択メニューの実施、献立検討会の実施、骨あり食材の提供、食事カードの付加等、昨年新たに開始した取り組みを継続することを25年度の第一目標とし、さらに、利用者を対象に実施した食事アンケートにおいて、「美味しくない」が3割、「ふつう」が3割とやや不満足との評価が出たことに対し、提供食の充実を図ることを念頭に置き、給食委託会社の調理員を対象に、厨房機器を活用した調理講習会を実施し、質的向上を図りました。

利用者にとって食事は、訓練や作業を行うにあたり活力の源となると同時に、楽しみのひとつでもあると考えるため、その食事を充実させて、満足度を向上させ、食事の喫食量を上げることが出来れば、結果的には利用者の健康管理、栄養管理にも繋がるものと考えています。

【新たな取り組み】

表 1-2

項目	内容
調理講習会の実施	提供する食事の質的向上を図る目的で、調理従事者を対象に、ホシザキ四国(株)に依頼し、スチームコンベクションやブラストチラーを活用した調理講習会を実施。利用者より不評であった「焼き魚」や「蒸し料理」、「やきそば」等、上記機器を使用して美味しく調理するコツを教わった。
手作りのデザート提供	既成品に頼りがちな給食委託会社の献立に対し、放課後等デイサービスはもちろんのこと、当センター利用者へ提供する食事のデザートは、基本的に厨房で作成し、提供するよう指示。週1回開催する委託会社との献立検討会において内容を協議し、手作りデザートの提供頻度を増やした。
人気メニューの増加	食事アンケートの結果、「美味しい」と評価のあるメニューや、「食べたい」との声が多かったメニューを増加して、食事の満足度向上を図った。 (例) カレーライス→最低月2回提供 麺類や変わりご飯は必ず週1回は提供するなど

4. 職員の安全衛生管理について

職場環境での職員の危険および健康障害を防止、衛生管理が適正にできているか、産業医による月1回(毎月第3週木曜日)の職場巡視、安全衛生管理者の2週1回の職場巡視を行いました。

産業医による次回の巡視までには改善箇所の改善を行うことの習慣化、職員全員による草引き、清掃等を行い、環境の美化意識も高まりました。また、職員の健康保持、増進を図るため、健康状態の把握や仕事による疲労やストレスを感じることの少ない働きやすい職場となっているか、相談に応じるよう心がけました。

5. ハビリ職員の委員会活動

表 1-3

委員会名	職員数	活動内容
マニュアル委員会	5名	マニュアルの追加等の確認
感染委員会	6名	ペーパータオル、ハンドソープ等の在庫管理、発注
システム委員会	7名	システムの不具合状況を日々確認
行事委員会	7名	季節行事の企画、運営（花見、夏祭り、もちつき大会）
災害対策委員会	5名	災害マニュアル作成、県に提出
図書委員会	5名	本の貸し出し確認、新刊の検討、購入
スポーツ委員会	6名	利用者対象もしくは職員のスポーツ大会の連絡調整
食の委員会	5名	季節ごとのお食事会企画、運営
地域ふれあい委員会	7名	地域住民との交流行事企画、運営、地域行事参加、情報提供
メディア委員会	3名	利用者に写真の提供（注文表等）

※兼務あり

6. 職員会議

表 1-4

会議名		開催日	開催時間
職員会		毎朝	8:30-8:45
		毎夕	16:50-17:00
		第2火曜日	16:10-17:00
幹部会		毎月第1・3火曜日	15:00-17:00
利用一次判定会・支援会		随時	
各科会議	自立訓練	不定期	15:00-16:00
	就労移行	毎週木曜日	16:15-17:00
	就労B型	毎週金曜日	16:15-17:00
	施設入所	毎月1回(月末)	17:00-18:00
	世話人	毎月1回	9:00-10:00
	ソーシャルワーカー	週1回	9:00-10:00
プログラム検討会		毎月1回	16:00-17:00
スポーツセンターとの会		毎月1回	15:00-16:00
自治会との会		必要に応じて開催	16:00-16:50

7. 職員研修(内部)

表 1-5

開催月日	講師(所属)	内容	参加職員数
5月28日	西原美佐氏(高知県障害保健福祉課)	障害者虐待防止法について	34名
9月12日	松田啓一氏(アマリハ・リハビリテーション病院)	就労支援のための接遇	39名
10月3日	是永かな子氏(高知大学)	事例検討会	40名
10月8日	ウォーラー美緒(ハビリ)	アメリカの就労支援	25名
11月12日	西山麻穂(ハビリ)	高次脳機能障害とは	27名
12月17日	宮本寛氏(南国中央病院)	脳の解剖と機能	32名
12月24日	北村善民氏(地域定着生活支援センター)	触法者の地域移行	26名
2月1日	中島恵子氏(平成帝京大学大学院)	WAIS-Ⅲの見方、事例検討	40名

8. 職員研修(外部)

表1-6

月日	研修名	主催	開催地	参加職員数
5月12日	高次脳機能障害実践的アプローチ講習会	NPO法人 東京高次脳機能障害協会	東京	7名
5月12日	障害のある子どもたちをトータルに支援するための研修	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会 生き生きサポートセンターうるば高知	高知市	3名
5月25日	みてわかる支援と環境づくり講座	療育福祉センター	高知市	1名
5月26日 6月8日	介護福祉士初任者研修	高知県介護福祉士会	高知市	2名
5月28日	25年度第1回障害者相談支援事業新任者研修		高知市	3名
5月28日 6月11日	パンづくり教室	高知市教育委員会生涯学習課	高知市	1名
6月4・5日	福祉職場の新任職員研修会	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会 高知県 福祉研修センター	高知市	4名
6月8・9日	四国フォーラムin香川	四国フォーラム実行委員会	香川県	3名
6月25・26 ・27・28日	平成25年度 第1回高次脳機能障害支援普及全国連絡協 議会 高次脳機能障害支援事業関係職員研修会	国立障害者リハビリテーションセンター	埼玉県	1名
6月26・27・28日	平成25年度高次脳機能障害支援事業関係職員研修会	国立障害者リハビリテーションセンター	埼玉県	1名
6月22日	高次脳機能障害ファンリテーター養成講座	NPO法人 高次脳機能障害支援ネット主催	高知市	3名
6月22日	自閉症スペクトラムの理解と支援	療育福祉センター	高知市	6名
7月18・19日	平成25年度「社会福祉法人 主任/係長講座」	全国社会福祉法人 経営者協議会	東京都	1名
7月25・26日	てんかん基礎講座	社団法人 日本てんかん協会	大阪市	1名
6月20日 7月29・30日	姿勢管理 アドバンス研修	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会	高知市	2名
7月18・19日	組織の中堅となる人材の育成	東京商業会議所	東京都	1名
8月11日	高次脳機能障害 実践的アプローチ講習会	NPO法人 東京高次脳機能障害協会	東京都	5名
8月15日	東部地域肢体不自由児・重複障害児支援のための公開講座	高知県立若草養護学校 土佐希望の家分校	南国市	3名
8月18日	クリーニング師養成講習会	高知県クリーニング生活衛生同業組合	高知市	1名
8月20・21日	日本福祉施設士会 平成25年度施設長実学講座(第1回) 「変化の時代に求められる福祉施設の経営マネジメント」	社会福祉法人 全国社会福祉協議会 日本福祉施設士会	東京都	1名
8月22日	食品衛生責任者養成講習会	高知県食品衛生協会	高知市	2名
8月26・27日	高知県相談支援従事者「初任者」研修	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会	高知市	8名
8月29・30日	日本職業リハビリテーション学会	日本職業リハビリテーション学会	埼玉県	2名
9月18・19・20日	障害者のヘルスプロモーション事業に関する研修会	国立障害者リハビリテーションセンター	埼玉県	2名
9月19・20日	全国社会福祉法人経営者大会	全国社会福祉協議会 全国社会福祉法人経営者協議会 香川県社会福祉協議会 香川県社会福祉法人経営者協議会	香川県	2名
9月19・20日	平成25年度中国・四国地区身体障害者更生指導所長 および職員研修会	社会福祉法人 愛媛県社会福祉事業団 えひめ障害者支援施設 道後ゆう	愛媛県	3名
9月25・27日 10月1日	就労支援基礎研修	独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構	高知市	1名
9月27日	平成25年度 障がい福祉サービス経営セミナー	独立行政法人 福祉医療機構	東京都	1名
9月27・28日	日本脳外傷友の会 第13回全国大会2013inおおい た～周りの理解が最大の補助具～	脳外傷友の会「おおい」	大分県	1名
9月28・29日	全国障害者就労支援ネットワーク 第6回全国大会・研修会in福岡	全国障害者就労支援ローカルネットワーク	福岡県	2名
10月3・4・5日	高齢者雇用開発フォーラムおよび 高齢者雇用開発コンテスト表彰式	厚生労働省 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構	東京都	1名
10月5日	第1回自動車運転再開とリハビリテーションに関する研究会	産業医科大学	福岡県	3名
10月11日	平成25年度高知県身体障害者(児)施設協会(作業部 会)・高知県社会就労センター協議会合同職員研修会	高知県身体障害者(児)施設協会(作業部会)・ 高知県社会就労センター協議会	高知市	2名
10月12・13日	平成25年度全国福祉栄養士研修会	公益社団法人 日本栄養士会	東京都	1名

10月27日	おめめどうセミナーin高知	株式会社 おめめどう	高知市	2名
10月31日	就労支援ネットワーク構築検討会 第1回研修会	就労支援ネットワーク構築検討会	高知市	2名
11月12日	事業者のための南海地震対策セミナー	高知労働基準監督署 高知労働基準協会 高知産業保健推進連絡協議会	高知市	3名
11月13日	全国厚生施設長会総会	全国身体障害者更生施設長会 全国身体障害者更生相談所長協議会 国立障害者リハビリテーションセンター	神奈川県	1名
11月14・15日	身体障害者リハビリテーション研究集会2013	全国身体障害者更生施設長会 全国身体障害者更生相談所長協議会 国立障害者リハビリテーションセンター	神奈川県	8名
11月15日	障害のある人の地域生活支援フォーラムこうち ～今まさにソーシャルワーク～	NPO法人 ワークスみらい高知	高知市	1名
11月15日 12月2・3日	平成25年度サービス管理責任者等研修(児童分野)	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会 高知県福祉研修センター	高知市	1名
11月15日 12月9・10日	平成26年度サービス管理責任者等研修(就労分野)	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会 高知県福祉研修センター	高知市	1名
11月15日 12月12・13日	平成27年度サービス管理責任者等研修(地域分野)	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会 高知県福祉研修センター	高知市	2名
11月15日 12月26・27日	平成29年度サービス管理責任者等研修(介護分野)	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会 高知県福祉研修センター	高知市	1名
11月21・22 ・23・24日	第34回アビリンピック全国障害者技能競技大会 障害者ワークフェア2013	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構	千葉県	1名
11月24日	高知市研修会 多職種・多機関障害者ケア研修会	高知市障がい福祉課	高知市	1名
11月28・29日	平成25年度 第43回中国・四国就労支援センター協議会 職員研修会	中国・四国社会就労センター協議会	高知市	3名
12月4・5日	防火管理資格講習	高知県消防設備保守協会	高知市	1名
12月8日	第3回高次脳機能障害 実践的アプローチ講習会	NPO法人 東京高次脳機能障害協会	東京都	2名
12月13日	【6業種別】事業継続訓練セミナー	高知県	高知市	4名
12月26・27日	平成28年度サービス管理責任者等研修(介護分野)	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会 高知県 福祉研修センター	高知市	1名
1月10・11日	平成25年度高知県身体障害者(児)施設協会(作業部 会)・高知県社会就労センター協議会合同職員研修会	高知県身体障害者(児)施設協会 高知県社会就労センター協議会	高知市	2名
1月24・25・26日	職業リハビリテーション実践セミナー	独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構	千葉県	1名
2月2日	平成25年度 クリーニング師研修 I 型	公益財団法人 高知県生活衛生営業指導センター	高知市	1名
2月7日	平成25年度給食関係者研修会	高知市保健所 生活食品課	高知市	1名
2月12日	就労支援事業所ネットワーク構築検討会 第3回研修会 みんなで実際に困っていることを語り合おう	就労支援ネットワーク構築検討会	高知市	2名
2月20・21日	平成25年度「第2回支援コーディネーター全国会議」及び 平成25年度「第2回高次脳機能障害支援普及全国連絡協 議会」、第2回厚生労働科学研究費「高次脳機能障害者の 社会参加支援の推進に関する研究」全体会議等	国立障害者リハビリテーションセンター	東京都	1名
2月22日	高知県食介護普及セミナー	高知県地域医療提供モデル事業ワーキンググ ループ・高知県リハビリテーション研究会	高知市	1名
2月24日	平成25年度地域移行・地域定着支援事業研修会	高知県中央西福祉保健所	いの町	1名
3月1日	自閉症・発達障害の人への筆談(コミュメモ)を使った視覚 支援について学ぶ	株式会社 おめめどう	高知市	1名
3月4・5日	平成25年度サービス管理責任者スキルアップ研修	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会	高知市	2名
3月6・7日	就労支援関係者講習会	就労サポートセンターかみまち	高知市	1名
3月9日	第146回治研セミナー 高次脳機能障害 評価と治療アプ	国際治療教育研究所	東京都	1名
3月21・22日	PECS レベル1 ワークショップ	ピラミッド教育コンサルタントオブジャパン株式会社	高知市	1名